

**学校と地域社会との連携・協力体制の在り方
に関する実証的研究**

2002年度

文教大学付属教育研究所

調査報告書の刊行に当たって

文教大学付属教育研究所所長

平 沢 茂

2002年4月、日本の学校教育は、大きな転換点を迎えた。学校週五日制と「総合的な学習の時間」の導入である。そのどちらもが、学力論争を引き起こし、特に、「総合的な学習の時間」については、今なお、廃止論を叫ぶ人々がいる。

しかし、その趣旨を理解し、大事に育てようとする学校や教師も多い。少なくとも、子どもたちの学力を真剣に考える者は、「総合的な学習の時間」の意義を理解し、成果を上げるために力を尽くそうとしている。

ところで、「総合的な学習の時間」の実施においては、保護者や地域住民をはじめとする学校外部の人々に協力を得ることが求められることが多い。必須というわけではない。けれども、教科の指導と異なって、多岐にわたる子どもの学習活動の成果を上げるためには、学校外の人々の協力を得ることは重要である。

学校外の人々の協力を得るためには、学校そして個々の教師はプロデューサー、コーディネーターとしての役割が求められる。それはそれで、手間のかかることであり、気配りも必要である。学校や教師からすれば、校内の力だけで完結する教育活動の方がよほど楽かも知れない。いや楽である。

しかし、教師が楽であることが重要なのかと問われれば、それを肯定するわけにはいくまい。子供に望ましい学力をつけてやることこそ教師の使命だからである。そのための手間を惜しむことは教師の使命をおろそかにすることに他ならない。

望ましい協力関係とは何か、どうすれば、より望ましい協力関係が結べるのか。そう考える教師は少なくない。

この研究では、その手がかりを得るために、まずは、「総合的な学習の時間」において学校と保護者・地域住民とがどのような協力関係を結んでいるのか、その実態を把握することを目指した。限られた予算と時間との中で不備も多く、必ずしも満足な成果が得られたとは言い難い。しかし、とりあえず見えてきたこともある。調査にご協力いただいた多くの方々のご厚意に応えるためにも、ともあれ調査のご報告をしなければなるまい。

この調査研究は、当初は複数年度にまたがって実施の予定で進められた。しかし、学内の事情で、本研究所における次年度の予定はまだ不明である。ただ、研究自体は、何らかの形で継続したいと考えている。

ともあれ、ご多忙の中をこの調査研究にご協力いただいた小学校、中学校の諸先生、そして保護者・地域住民の方々に心よりの感謝を申し上げたい。また、調査にご協力いただける中学校との橋渡しをしてくださった埼玉県中学校長会事務局長・山根和夫先生に深甚の謝意を表したい。

2003年3月

目 次

I 本調査研究の目的・内容・方法

1. 研究の目的	4
2. 研究の内容	4
3. 調査の対象・方法	4
4. 研究組織及び執筆分担	5

II 調査結果の概要

A. 教員に対する調査

1. 「総合的な学習の時間」について	
(1) 「総合的な学習の時間」とはどのような学習か	6
(2) 「総合的な学習の時間」についての感想	7
2. 「総合的な学習の時間」における地域との連携・協力について	
(1) 保護者や地域の人々の協力を得たことがあるか	8
(2) どのような協力を得たか	9
(3) 保護者や地域の人々から協力を得るための留意点	10
(4) 保護者や地域の人々から協力を得る際の問題点	10
(5) 協力者の探し方	11
(6) 協力者との事前打合わせの時期・回数	12
(7) 協力者との事前打合わせの程度	13
(8) 事前打合わせの方法	14
(9) 保護者や地域の人々との連携のための組織・体制	15
3. 「総合的な学習の時間」についての情報提供・情報交流	
(1) 保護者や地域の人々への情報提供の有無	16
(2) 情報提供の目的	16
(3) 情報提供の方法	18
(4) 情報提供に対する反応の把握方法	19
(5) 情報提供に対する反応	20
(6) 情報提供を行わない理由	21
4. 「総合的な学習の時間」以外の面での地域社会との連携について	
(1) 地域社会と連携・協力している活動	22
(2) 保護者や地域の人々から協力を得るメリット	22
(3) 保護者や地域の人々から協力を得る際の留意点	23
(4) 保護者や地域の人々と連携・協力した活動をする際に難しいこと	26
(5) 勤務校の地域の様子を知るためにしていること	27
(6) 勤務校の地域で自発的に協力・支援している活動	28

B. 保護者・地域住民に対する調査	
1. 「総合的な学習の時間」について	
(1) 「総合的な学習の時間」とはどのような学習か	30
(2) 「総合的な学習の時間」についての感想	30
2. 「総合的な学習の時間」における協力の現状	
(1) 協力の内容	31
(2) 協力したときに感じた問題点	31
(3) 協力にあたり、学校側に望むこと	32
3. 「総合的な学習の時間」以外での学校教育への協力の現状について	
(1) 市町村や学校教育の人材バンクの登録状況	33
(2) 学校教育への協力形態	33
(3) 学校教育との連携・協力内容	34
(4) 学校教育について知るためにしていること	34
4. 学校と地域社会との連携について	
(1) 学校が保護者や地域の人々から協力を得ることのメリット	35
(2) 学校に希望する配慮	36
(3) 学校と連携・協力する活動に関わる際、難しいこと	37
C. 連携についての教員と保護者・地域住民との比較	
1. 「総合的な学習の時間」とはどのような学習か	38
2. 「総合的な学習の時間」についての感想	39
3. 保護者や地域の人々から協力を得ることのメリット	39
4. 保護者や地域の人々からよりよい協力を得るための（学校側の）留意点	40
Ⅲ 自由記述から見える問題	41
Ⅳ 調査用紙と単純集計	45

Ⅰ 本調査研究の目的・内容・方法

1. 研究の目的

「総合的な学習の時間」に真剣に取り組み、成果を上げようとする場合、学校外の人々の協力を得ることは疑いもなく重要である。この調査研究では、「総合的な学習の時間」を巡る学校・教員と保護者・地域住民との協力関係の実態を見極めることを意図している。

2. 研究の内容

上記の目的の下に、次の2つのアンケート調査を実施した。1つは教員を対象とするもの、もう1つは保護者・地域住民を対象とするものである。両調査の内容は若干異なっている。しかし、それは、対象の相違による問い方の相違であり、大筋の内容は両者ともほぼ共通している。その内容は、以下のようである。

- ① 「総合的な学習の時間」そのものに関する意識（イメージ）
 - ② 「総合的な学習の時間」に関する学校と地域との協力関係に関する実態と意識
 - ③ 「総合的な学習の時間」をめぐる学校と地域との情報交流の実態と意識
 - ④ 「総合的な学習の時間」以外の面での学校と地域との協力関係に関する実態と意識
- 以上の他、保護者・地域住民対象の調査では、協力における学校への要望を聞いている。

3. 調査の対象・方法

(1) 学校及び教員の抽出

調査は、「総合的な学習の時間」の研究に熱心に取り組んでいる、東京都および埼玉県の、公立の小・中学校を対象として実施した。地域を東京都と埼玉県とに絞ったのは、限られた時間で現実的に可能な地域をと考えてのことである。また、あまり熱心でない学校、国立・私立学校も取り上げる必要があるとの議論は当然あった。しかし、次の理由でその必要はなかろうとの結論に達した。すなわち、熱心な公立学校の様子が分かれば、研究の目的は十分に果たせると考えたためである。なお、小学校に関しては、研究メンバーに栃木市の教育委員会に所属するものがいた関係で、栃木市の学校2校を加えることとした。

抽出された小学校、中学校数は以下のとおりである。

<小学校> 東京都／4校 埼玉県／1校 栃木市／2校 計／7校
<中学校> 東京都／2校 埼玉県／6校 計／8校

なお、対象とした学校に関しては、原則として全教員に調査用紙を配布してもらった。

学校種別の回答者数は、以下のとおりである。

	男性	女性	無回答	合計
小学校	34 (32.1)	71 (67.0)	1 (0.9)	106 (100.0)
中学校	106 (60.6)	62 (35.4)	7 (4.0)	175 (100.0)
全 体	140 (49.8)	133 (47.3)	8 (2.8)	281 (100.0)

上段=N

下段=%

(2) 保護者・地域住民の抽出

保護者・地域住民に関しては、調査対象の学校に依頼し、保護者・地域住民それぞれを当該校の教員の半数程度抽出してもらった。つまり、保護者・地域住民をあわせて当該校の教員と同数になるように抽出してもらうように依頼したということである。ただ、保護者と地域住民とで調査内容が異なるというわけでもないの、回答時にその区別をすることは依頼しなかった。学校によっては、保護者と地域住民との数が同数になるように抽出することが難しい場合もあったからである。そのため、結果の考察においても、両者の区別は厳密には行っていない。

回答者数は以下のとおりである。

上段=N 下段=%

男性	女性	無回答	合計
59	232	3	294
(20.1)	(78.9)	(1.0)	(100.0)

(3) 調査票の配布・回収

調査は、学校経由の留置法とした。すなわち、調査票は、研究分担者が学校に届け、対象者への調査票の配布は学校に依頼した。回答用紙の回収も学校に依頼し、まとまった段階で研究分担者に手渡してもらった。

(4) 調査時期

2002年10月～12月

4. 研究組織及び執筆分担（執筆順）

平 沢 茂（研究代表；文教大学教育学部教授・文教大学付属教育研究所所長）

..... I、III

宮 地 孝 宜（文教大学付属教育研究所研客員研究員、日本女子大学大学院博士課程）

..... II-A-1、II-C

五十嵐 牧 子（文教大学付属教育研究所研客員研究員）..... II-A-2

井 上 英 子（文教大学付属教育研究所職員）..... II-A-3

林 幸 克（文教大学付属教育研究所研客員研究員、大田区教育委員会）

..... II-A-4

米 澤 朋 英（文教大学付属教育研究所研客員研究員、企業活性化研究所主席研究員）

..... II-B-1、2

鈴 木 廣 志（文教大学付属教育研究所研客員研究員、栃木市教育委員会）

..... II-B-3、4

白 石 和 夫（文教大学教育学部教授・文教大学付属教育研究所研究部主任）

伊 藤 学（文教大学付属教育研究所研客員研究員、練馬区教育委員会）

II 調査結果の概要

A. 教員に対する調査

1. 「総合的な学習の時間」について

(1) 「総合的な学習の時間」とはどのような学習か

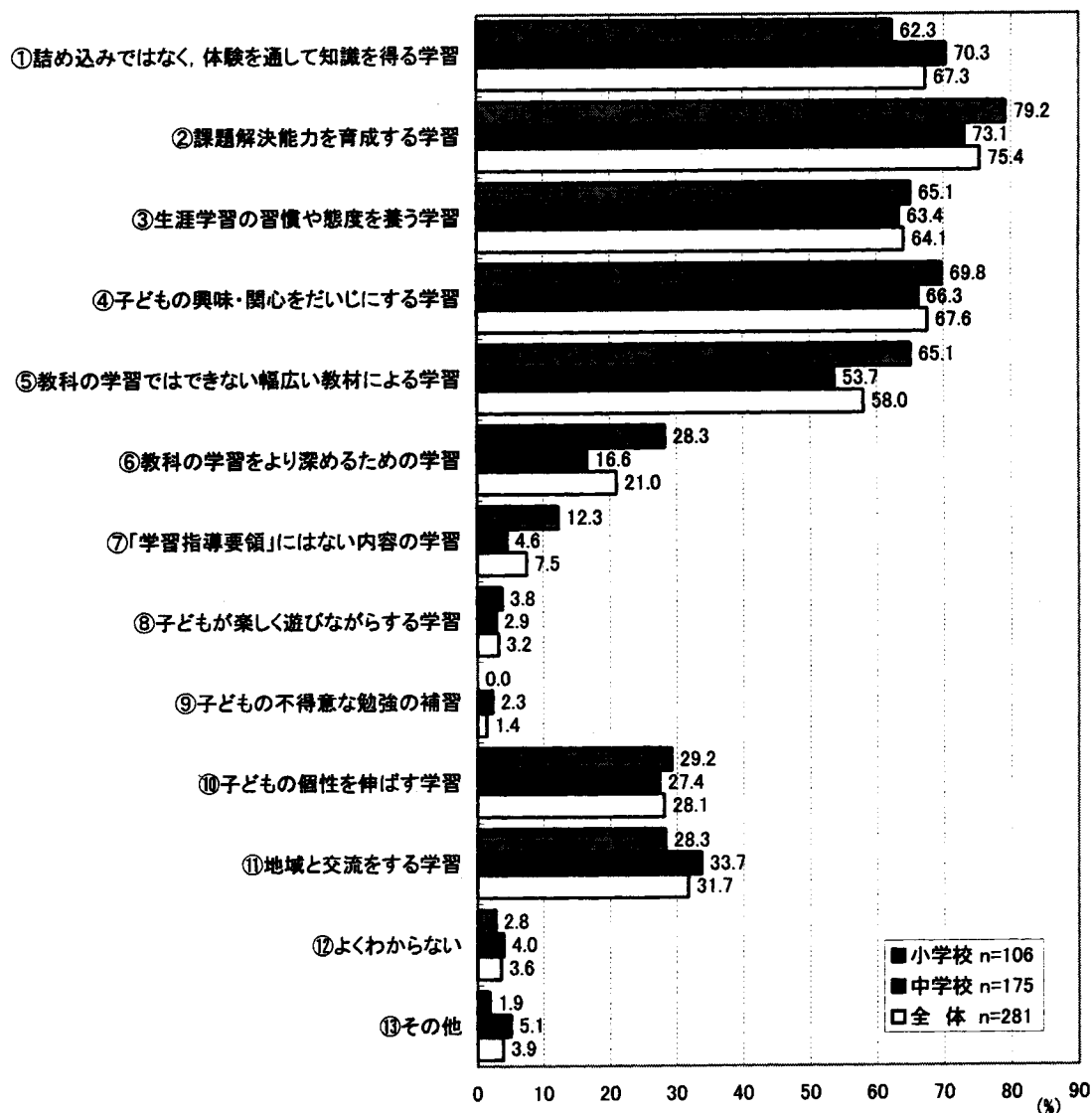


図 A-1-1 「総合的な学習の時間」とはどのような学習か（複数回答）

全体的な回答をみると、「②課題解決能力を育成する学習」（75.4%）、「④子どもの興味・関心をだいにする学習」（67.6%）、「①詰め込みではなく、体験を通して知識を得る学習」（67.3%）、「③生涯学習の習慣や態度を養う学習」（64.1%）、「⑤教科の学習ではできない幅広い教材による学習」（58.0%）の5項目のポイントが特に高い。これらの回答は、学習指導要領に記述された内容を大きく反映している。ついで多い回答は、「⑪地域と交流をする学習」（31.7%）、「⑩子どもの個性を伸ばす学習」（28.1%）、「⑥教科の学習をより深めるための学習」（21.0%）となっている（図 A-1-1 参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校とを比較すると、「⑤教科の学習ではできない幅広い教材による学習」（小学校 65.1%、中学校 53.7%）、「⑥教科の学習をより深めるための学習」（小学校 28.3%、中学校 16.6%）、「⑦「学習指導要領」にはない内容の学習」（小学校 12.3%、中学校 4.6%）の3項目において、小学校のポイントが高い結果となった。

（2）「総合的な学習の時間」についての感想

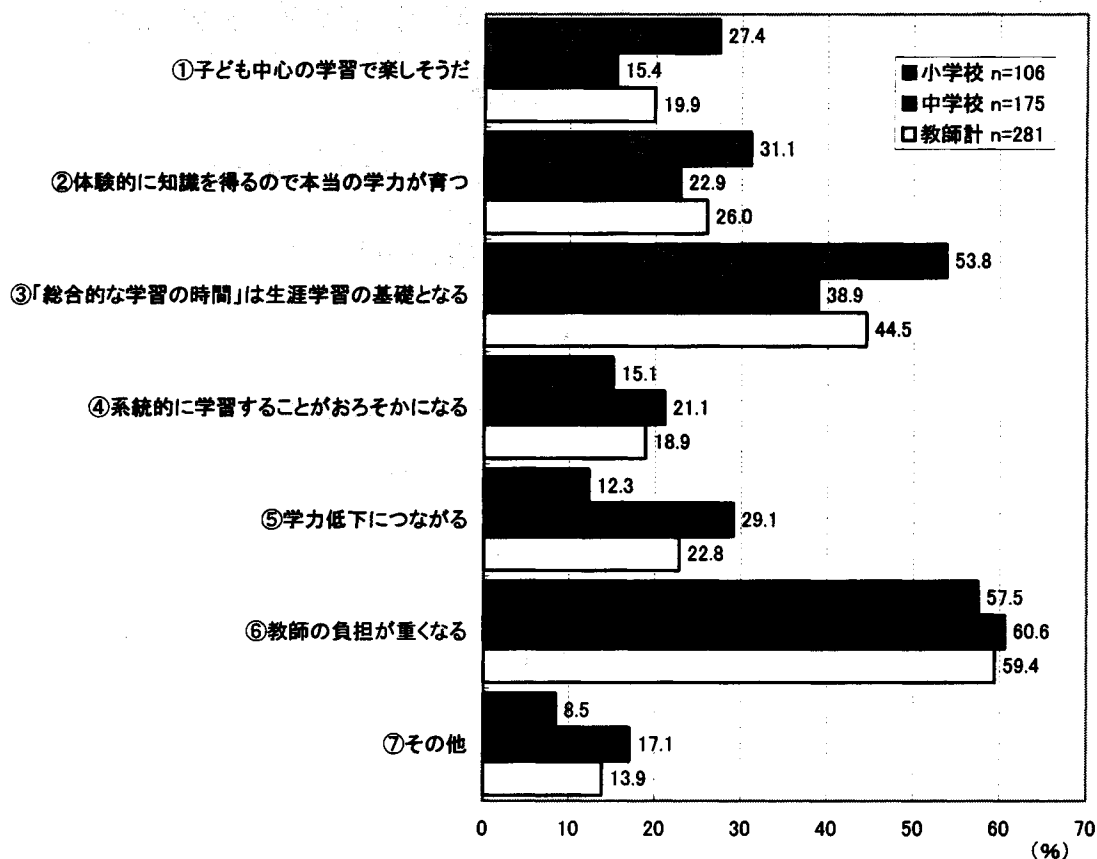


図 A-1-2 「総合的な学習の時間」についての感想（複数回答）

全体的にみると、「⑥教員の負担が重くなる」（59.4%）と、6割近い教員が回答している。

次いで、「③総合的な学習の時間は生涯学習の基礎となる」（44.5%）、「⑤学力低下につながる」（22.8%）、「②体験的に知識を得るので本当の学力が育つ」（26.0%）となっている（図 A-1-2 参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校との比較をすると、「①子ども中心の学習で楽しそうだ」（12ポイント）、「②体験的に知識を得るので本当の学力が育つ」（8.2ポイント）、「③総合的な学習の時間は生涯学習の基礎となる」（14.9ポイント）については、小学校のポイントが高く、「⑤学力低下につながる」（16.8ポイント）は中学校のポイントが高い。

2. 「総合的な学習の時間」における地域との連携・協力について

(1) 「総合的な学習の時間」において、保護者や地域の人々の協力を得たことがあるか

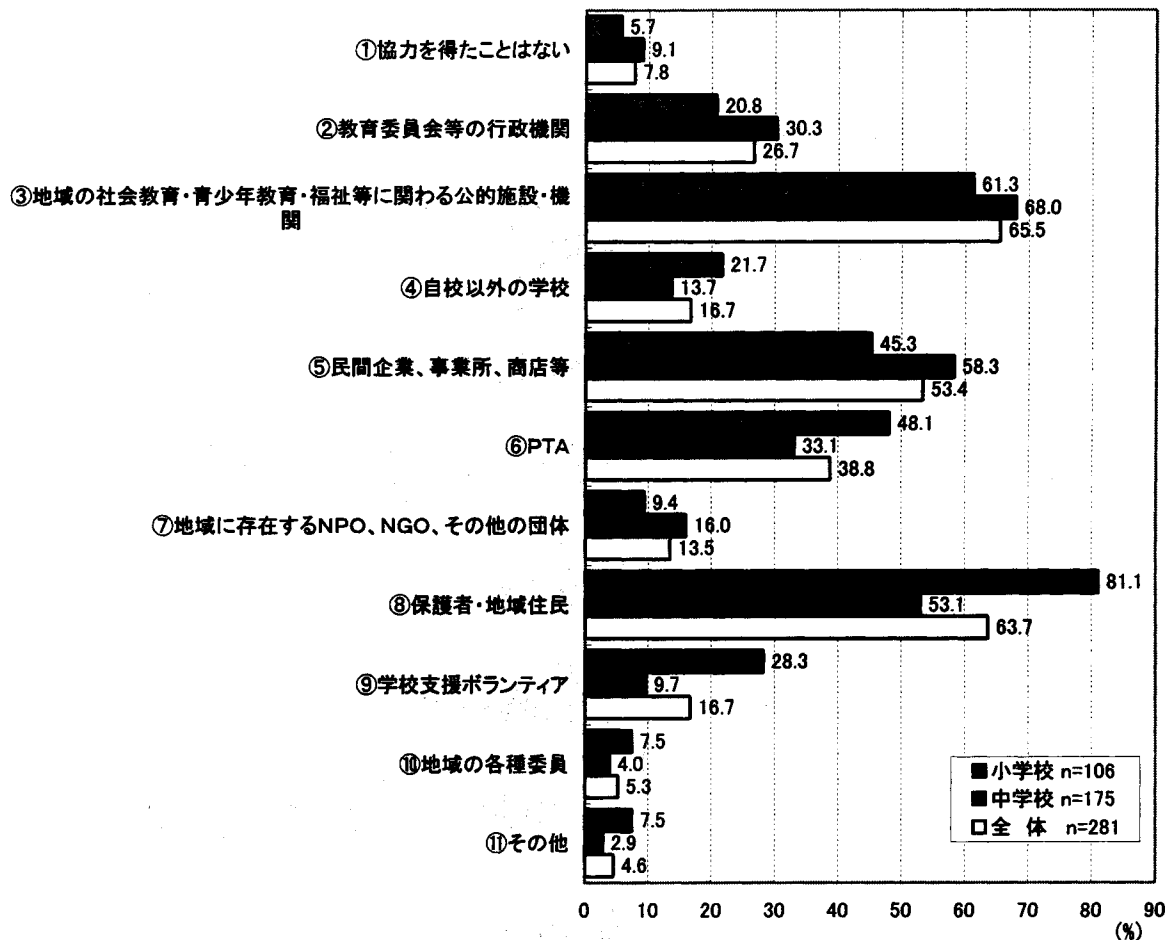


図 A-2-1 保護者や地域の人々の協力を得たことがあるか（複数回答）

全体的な回答を見ると、「①協力を得たことはない」（7.8％）は少なく、ほとんどの人が何らかの協力を得ていることがわかる。どのような人（機関）に協力を得たかでは、「③地域の社会教育・青少年教育・福祉等に関わる公的施設・機関」（65.5％）、「⑧保護者・地域住民」（63.7％）、「⑤民間企業、事業所、商店等」（53.4％）等が50％を超えている。ついで多い回答が、「⑥PTA」（38.8％）である（図A-2-1参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校とを比較すると、「⑧保護者・地域住民」（小学校81.1％、中学校53.1％）、「⑨学校支援ボランティア」（小学校28.3％、中学校9.7％）、「⑥PTA」（小学校48.1％、中学校33.1％）の3項目において、小学校のポイントが特に高い。一方、「⑤民間企業、事業所、商店等」（小学校45.3％、中学校58.3％）では、中学校のポイントが特に高い。また、小学校では「⑤民間企業、事業所、商店等」よりも「⑥PTA」が若干高いのに対して、中学校では「⑥PTA」よりも「⑤民間企業、事業所、商店等」が25.2ポイント高い結果となった。

(2)「総合的な学習の時間」において、どのような協力を得たか

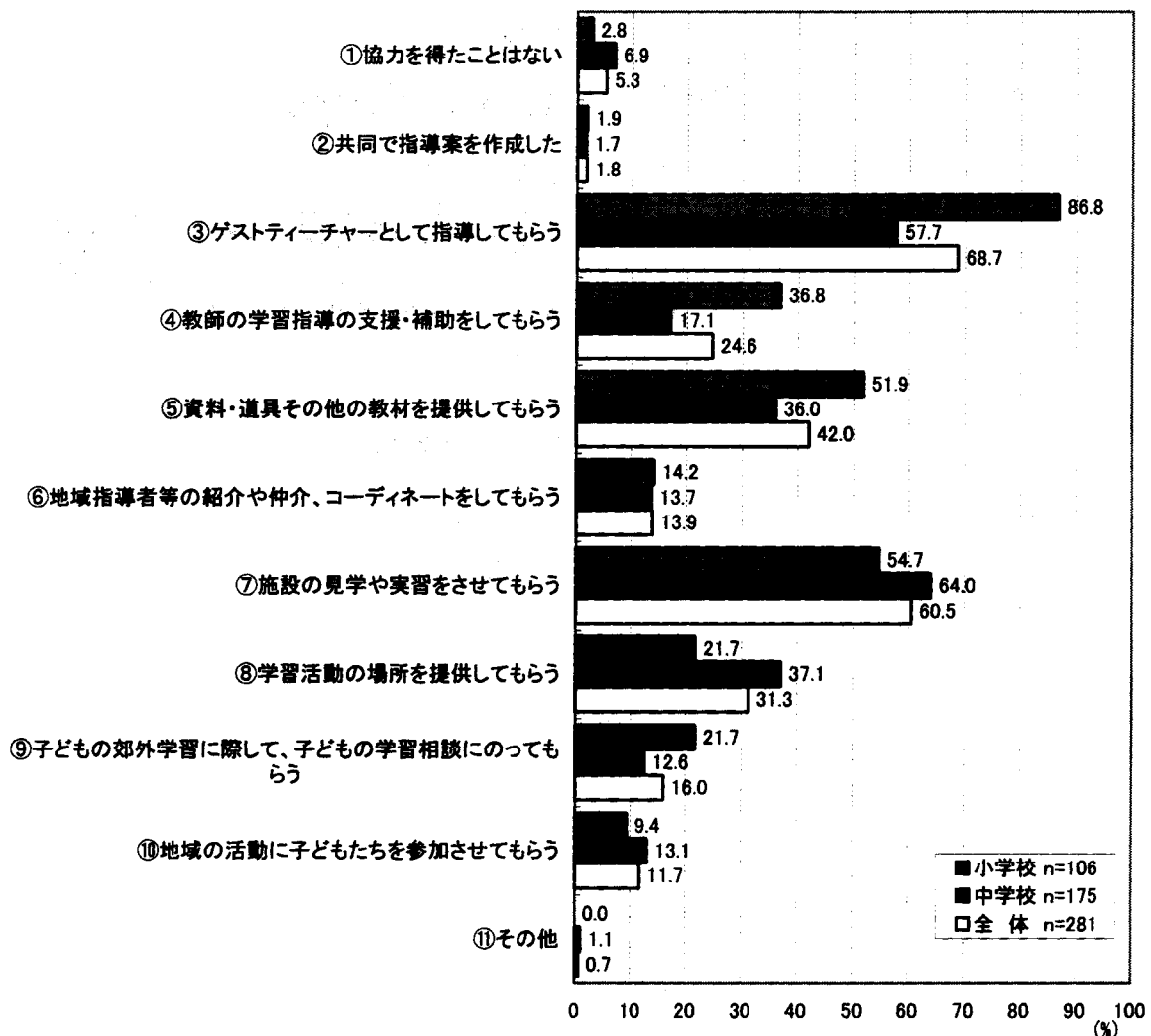


図 A-2-2 どのような協力を得たか（複数回答）

全体的な回答を見ると、「③ゲストティーチャーとして指導してもらう」（68.7%）、「⑦施設の見学や実習をさせてもらう」（60.5%）が多く、60%を超えている。ついで多い回答は、「⑤資料・道具その他の教材を提供してもらう」（42.0%）、「⑧学習活動の場所を提供してもらう」（31.3%）となっている。一方、「②共同で指導案を作成した」（1.8%）の割合は低い（図 A-2-2 参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校とを比較すると、特に「③ゲストティーチャーとして指導してもらう」（小学校 86.8%、中学校 57.7%）、「④教師の学習指導の支援・補助をしてもらう」（小学校 36.8%、中学校 17.1%）、「⑤資料・道具その他の教材を提供してもらう」（小学校 51.9%、中学校 36.0%）の 3 項目において、小学校のポイントが高く、比較的その差が大きい。一方、「⑧学習活動の場所を提供してもらう」（小学校 21.7%、中学校 37.1%）、は中学校のポイントが特に高い。

(3)「総合的な学習の時間」において、保護者や地域の人々から協力を得るための留意点

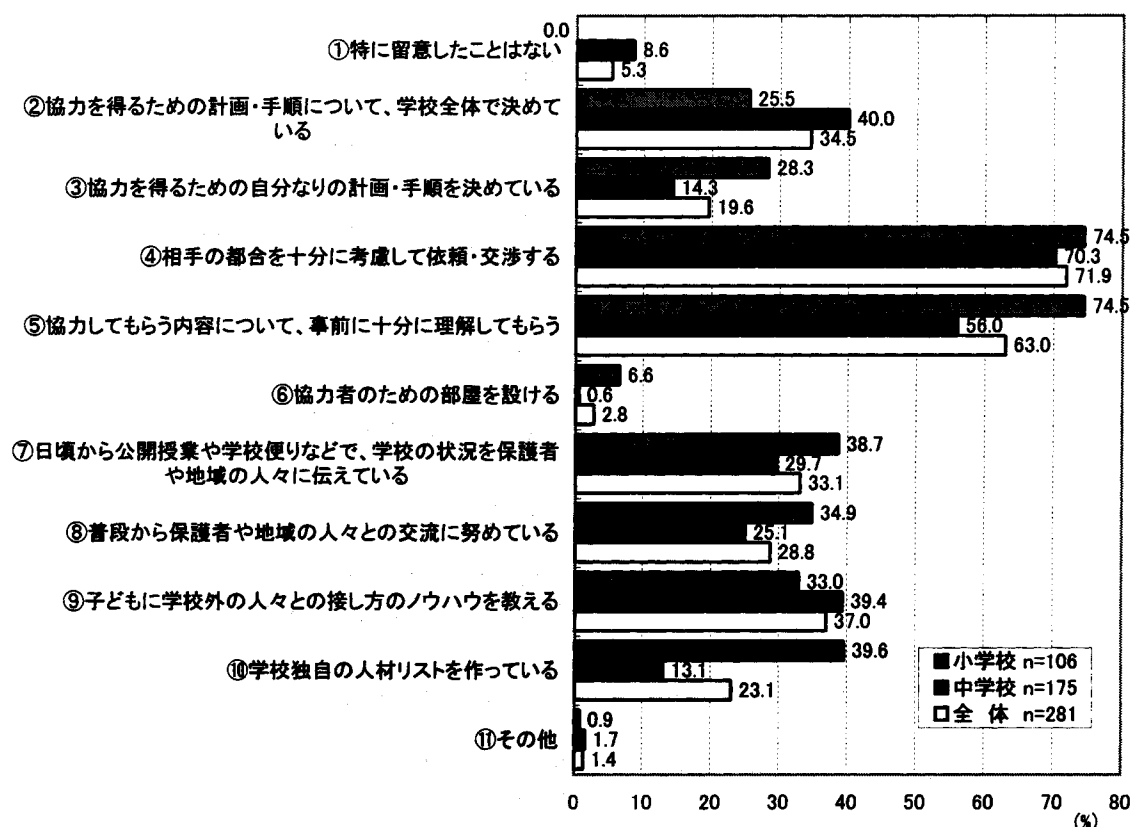


図 A-2-3 保護者や地域の人々から協力を得るための留意点（複数回答）

全体的な回答を見ると、「④相手の都合を十分に考慮する」（71.9%）、「⑤協力してもらう内容について、事前に十分に理解してもらう」（63.0%）が、特にポイントが高い。この2項目は、小中学校それぞれにおいて高くなっている。ついで多い回答は、「⑨子どもに学校外の人々との接し方のノウハウを教える」（37.0%）である。④⑤以外の項目は、すべて40%以下となっており、「⑥協力者のための部屋を設ける」（2.8%）など、具体的な手立てを行っている項目は比較的ポイントが低い（図 A-2-3 参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校とを比較すると、「⑩学校独自の人材リストを作っている」（小学校 39.6%、中学校 13.1%）をはじめ、小学校のポイントが高い項目が多い。

(4)「総合的な学習の時間」における保護者や地域の人々から協力を得る際の問題点

全体的な回答を見ると、「⑥協力を得るための打ち合わせ時間の余裕がない」が最も高い（51.2%）。ついで多い回答が、「③適任者を得ることが難しい」（29.5%）、「②特に問題は感じなかった」（23.5%）となっている。以上2項目は、小中学校それぞれにおいても、比較的高くなっている。また、「④協力依頼の段階でトラブルが発生し、協力が得られなかった」（2.1%）、「⑧日時の調整がうまくいかず、協力が得られなかった」（12.5%）など、交渉段階で協力が打ち切られた項目のポイントは、比較的低くなっている（図 A-2-4 参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校とを比較すると、「⑥協力を得るための打ち合わせ時間の余裕がない」(小学校 61.3%、中学校 45.1%)、「③適任者を得ることが難しい」(小学校 38.7%、中学校 24.0%)の2項目において、小学校のポイントが特に高くなっている。

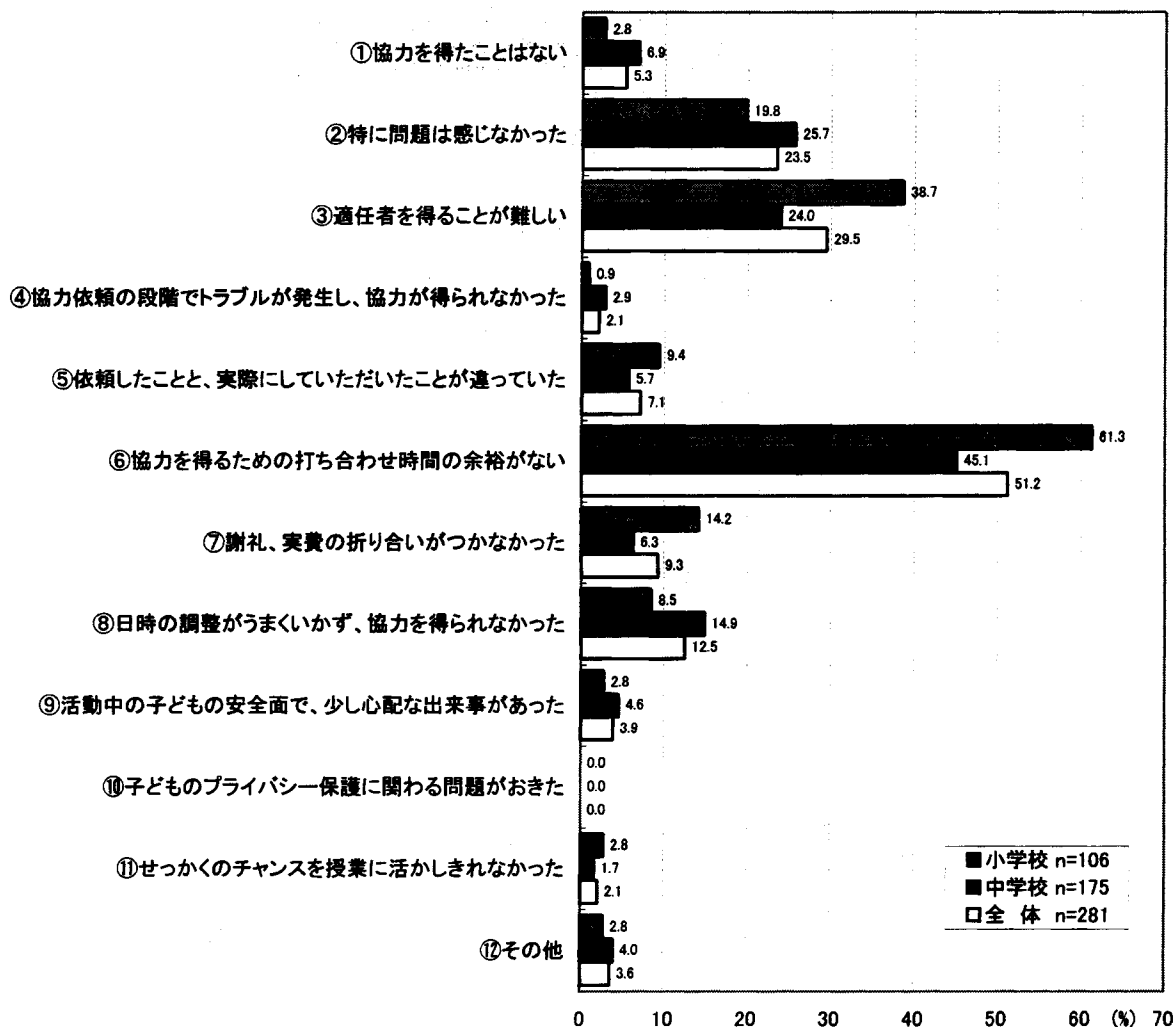


図 A-2-4 保護者や地域の人々から協力を得る際の問題点（複数回答）

（５）「総合的な学習の時間」における協力者の探し方

小中学校とも「②教師が個人的に探した」が最も高くなっている。(全体 47.0%、小学校 56.6%、中学校 41.1%)。ついで多い回答が、「③同僚の教師に」(36.3%)、「⑤行政機関やその他の公的機関を通じて」(35.6%)となっている。一方、⑦～⑨を見ると、人材バンク等を利用する項目のポイントは、比較的低くなっている(図 A-2-5 参照)。

【校種間比較】

小学校と中学校とを比較すると、「③同僚の教師に」(小学校 51.9%、中学校 26.9%)、「②教師が個人的に探した」(小学校 56.6%、中学校 41.1%)の2項目において、小学校のポイントが特に高い。

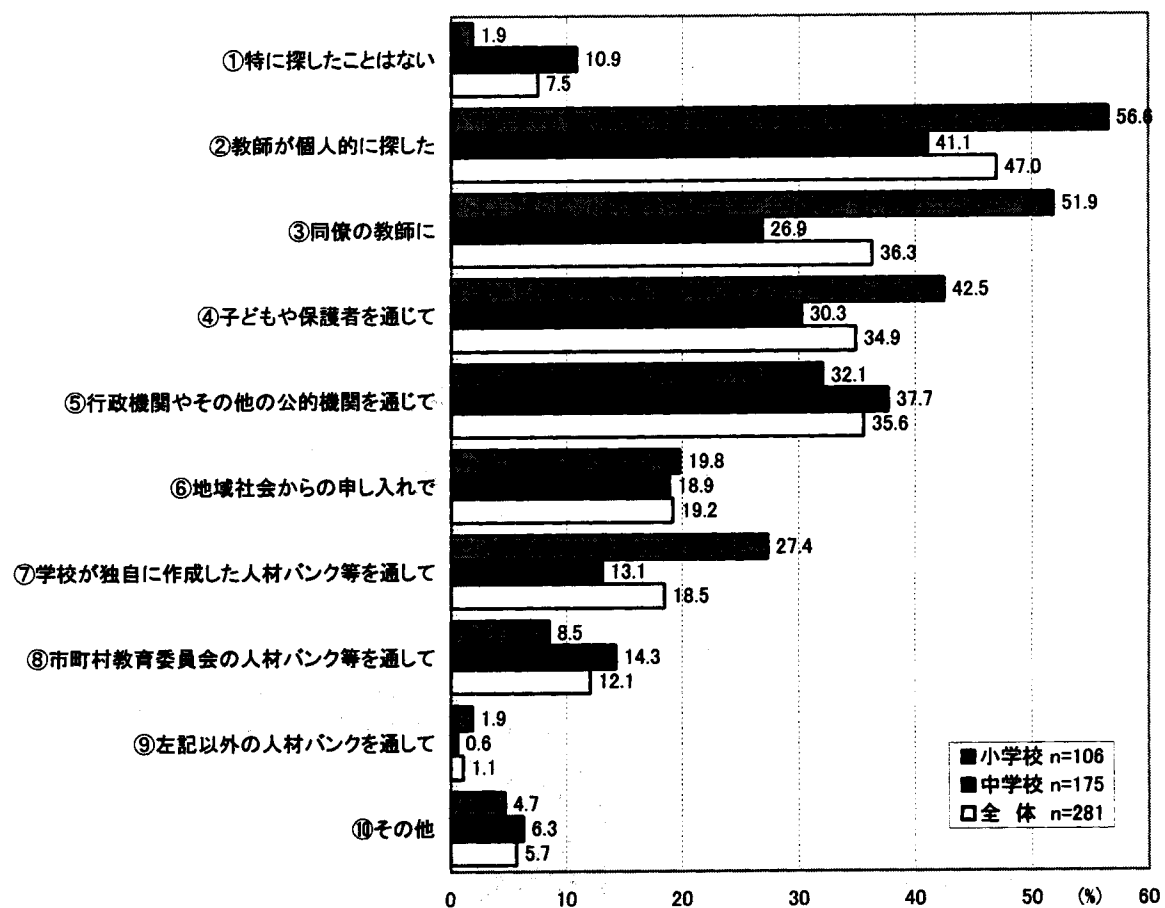


図 A-2-5 協力者の探し方（複数回答）

（６）「総合的な学習の時間」における協力者との事前打ち合わせの時期・回数

平均的には「1ヶ月前以上から2回程度」と考えられる。また、中学校の方が小学校よりも早い段階から交渉を始める傾向がある（図 A-2-6-a 参照）。「⑥当日はじめて」や「⑤前日にはじめて」との回答も、数は少ないものの、合わせて5人いる。事前打ち合わせの回数は、早い時期から始める方が回数が多く、反対に遅い時期から始めると少ない傾向となっている（表 A-2-6-b 参照）。

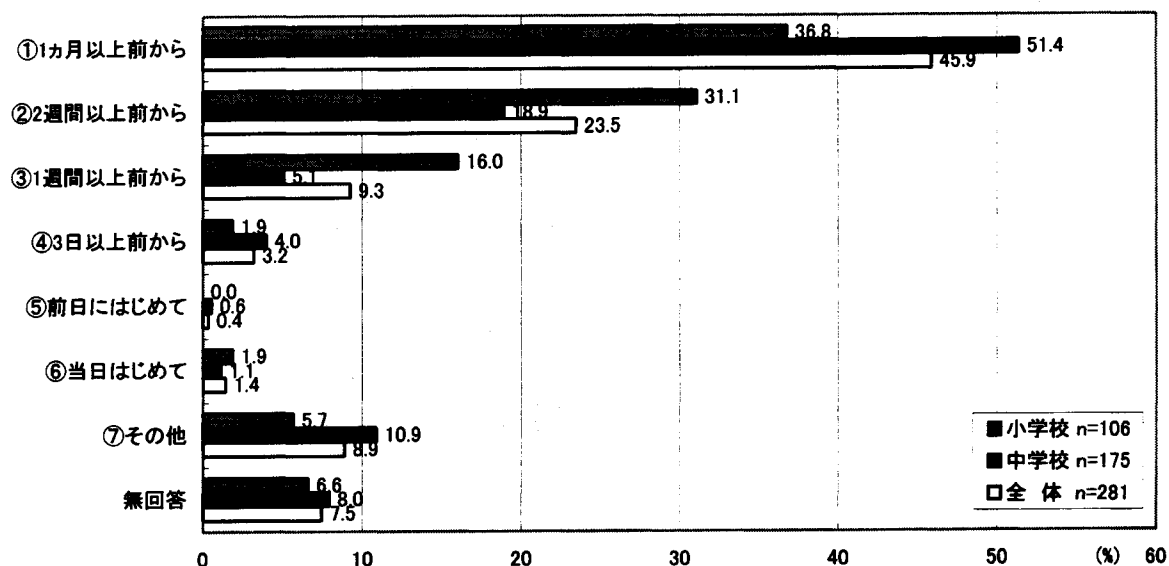


図 A-2-6-a 事前打ち合わせの時期

(人)

	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	10 回	回数なし	合計
①1 ヶ月以上前から	30	66	20	3	2	1	7	129
②2 週間以上前から	31	27	2	0	2	0	4	66
③1 週間以上前から	16	7	1	0	0	0	2	26
④3 日以上前から	6	1	0	0	0	0	2	9
⑤前日にはじめて							1	1
⑥当日はじめて							4	4
⑦その他							25	25
計	83	101	23	3	4	1	45	260
無 回 答								21
合 計								281

表 A-2-6-b 事前打ち合わせの回数

(7)「総合的な学習の時間」における協力者との事前打ち合わせの程度

②③（依頼する授業等の目的や具体的な内容の説明）がそれぞれ 40～50%となっており、④⑤（活動してもらう場合の留意点の説明）よりもポイントが高い。また、②④（詳しく説明）よりも、③⑤（簡単に説明）の方がポイントが高い。一方、「⑥リハーサルをしてもらう」（1.1%）、「⑦クラスの児童・生徒と顔合わせをする」（2.8%）はポイントが低くなっている（図 A-2-7 参照）。

【校種間比較】

全体のポイントが比較的高かった項目②～⑤において、小学校の方が中学校よりも高くなっている。

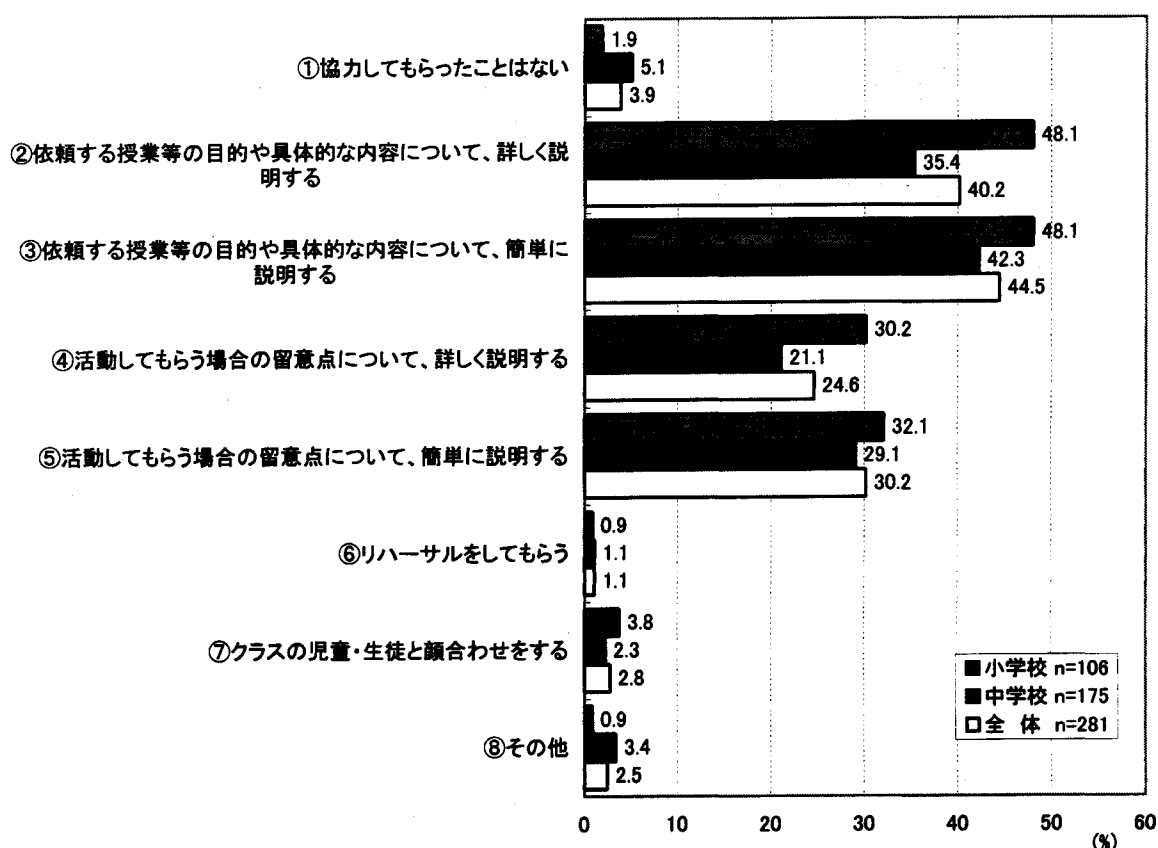


図 A-2-7 協力者との事前打ち合わせの程度（複数回答）

（８）「総合的な学習の時間」における事前打ち合わせの方法

全体的な回答と小中学校それぞれを見ると、「①電話」（全体 75.4%、小学校 76.4%、中学校 74.9%）が最も多い。ついで多い回答は、「③こちらから訪問する」（57.3%）となっている（図 A-2-8 参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校とを比較すると、「②学校に来てもらう」（小学校 44.3%、中学校 18.9%）において、小学校のポイントが高く、その差が大きい。

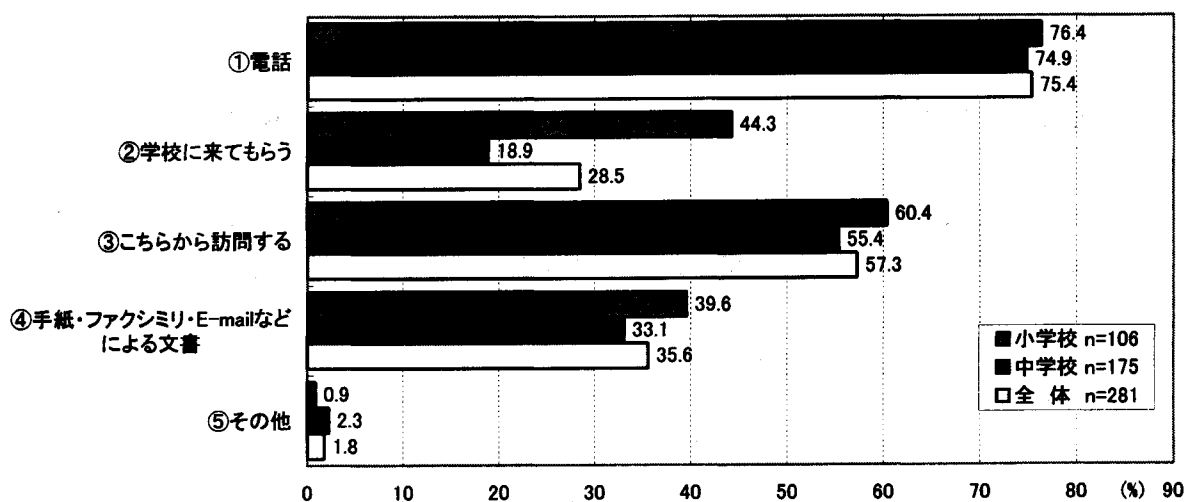


図 A-2-8 事前打ち合わせの方法（複数回答）

(9)「総合的な学習の時間」における保護者や地域の人々との連携のための組織・体制

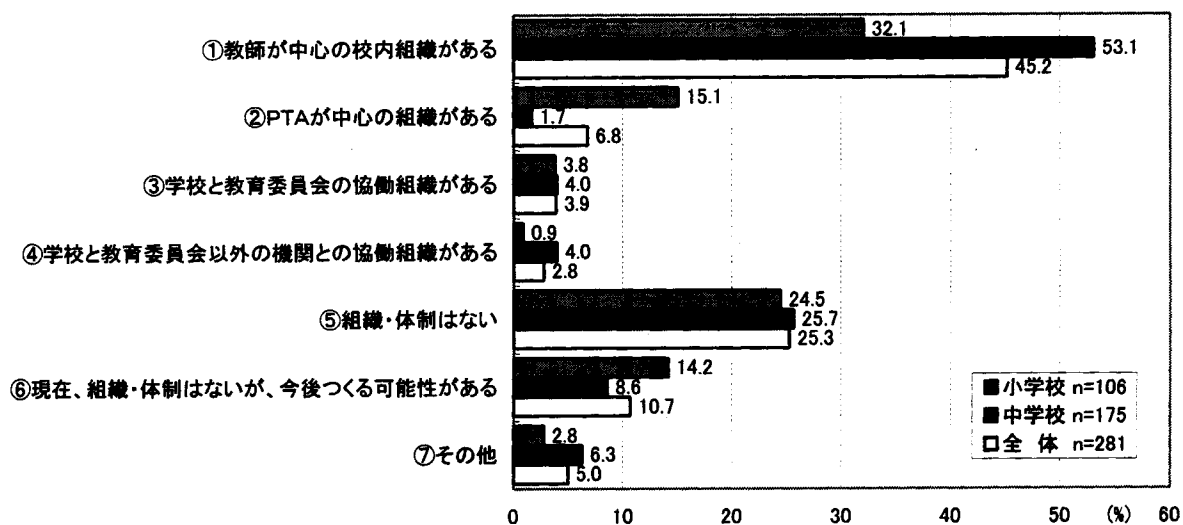


図 A-2-9-a 保護者や地域の人々との連携のための組織・体制（複数回答）

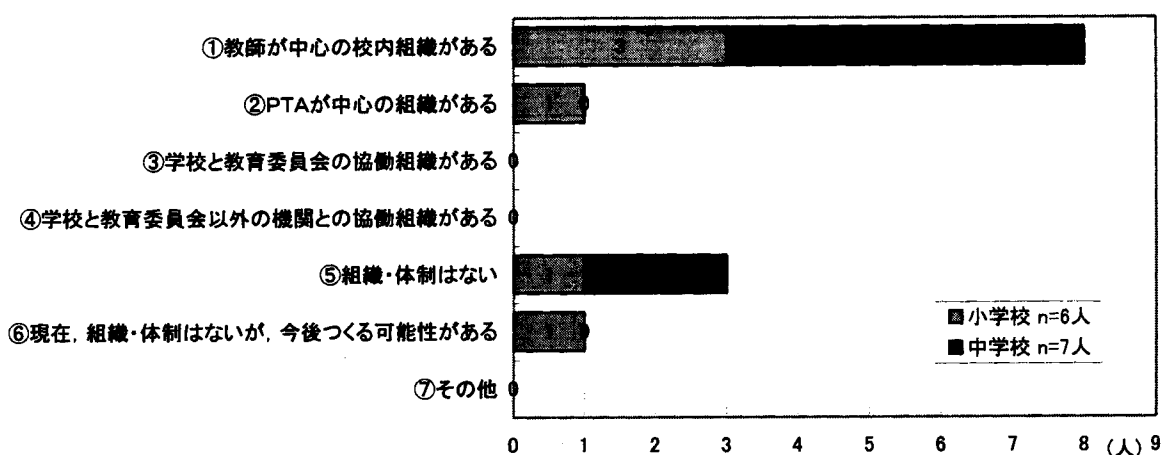


図 A-2-9-b (図 A-2-9-a から教頭の回答のみを抽出)

全体的な回答を見ると、何らかの組織・体制を持っている学校が多いことがわかる。特に、「①教師が中心の校内組織がある」(45.2%)のポイントが最も高くなっている(図 A-2-9-a 参照)。

この質問は、本来、一つの学校内における回答者の回答が一致するはずだが、必ずしもそうはなっていなかった。そこで、教頭の回答のみ(13名)を抽出したところ、全体的な割合は、図 A-2-9-a とほぼ同じ結果となった(図 A-2-9-b 参照)。

【校種間比較】

小学校と中学校とを比較すると、「①教師が中心の校内組織がある」(小学校 32.1%、中学校 53.1%)において、中学校のポイントが特に高い。また、「②PTA が中心の組織がある」(小学校 15.1%、中学校 1.7%)においては、小学校のポイントが特に高い。

3. 「総合的な学習の時間」についての情報提供・情報交流

(1) 「総合的な学習の時間」について、保護者や地域の人々への情報提供の有無

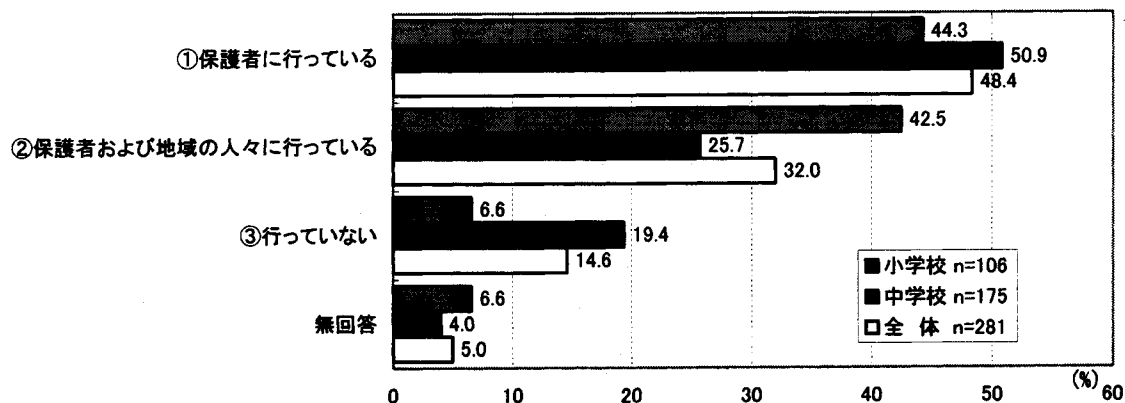


図 A-3-1 保護者や地域の人々への情報提供の有無（回答数一つ）

全体で 80.4% の教員が、「総合的な学習の時間」についての情報提供を「行っている」と回答している（上図①+②）。小学校では「①保護者対象に」（44.3%）と「②保護者および地域の人々対象に」（42.5%）がほぼ同数である。中学校では、「②保護者および地域の人々対象に」（25.7%）は「①保護者対象に」（50.9%）より 25.2 ポイント低い。中学校では地域の人々への情報提供をあまり行っていない傾向がある。「③情報提供を行っていない」のは、中学校の方が多く、小学校より 12.8 ポイント高い（小学校 6.6%、中学校 19.4%）（図 A-3-1 参照）。

(2) 「総合的な学習の時間」についての情報提供の目的

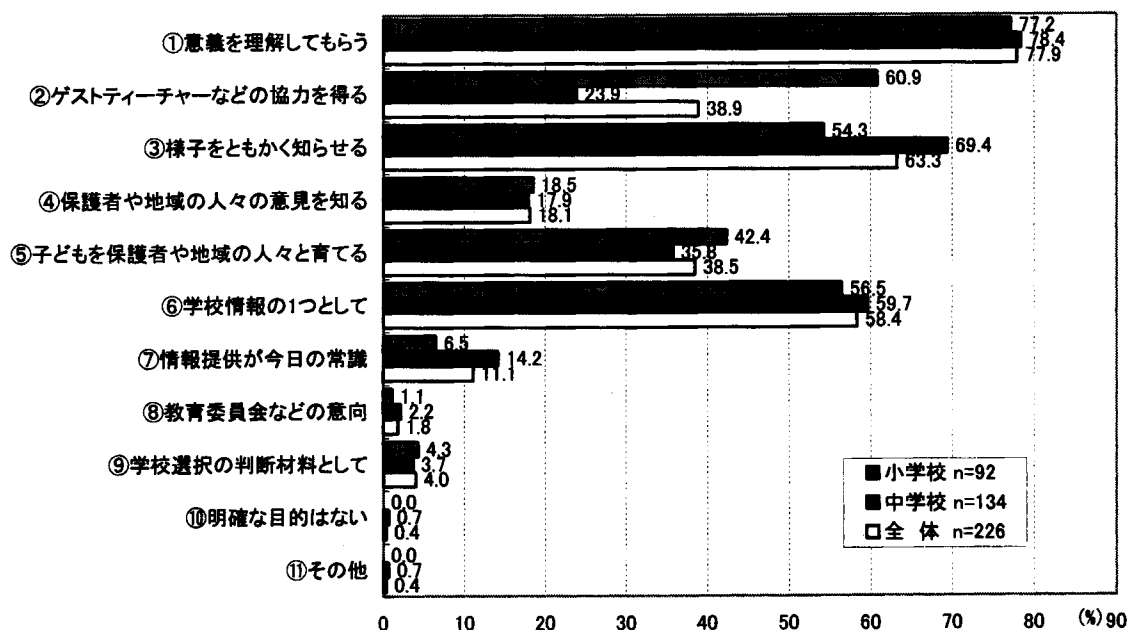


図 A-3-2-a 情報提供の目的（複数回答）

ここでは、設問（１）で、「情報提供を行っている」と回答した 226 名（80.4％）の情報提供の目的を聞いている。以下、（５）まで情報提供を行っているとは回答した人への設問である。

情報提供を行う目的は、「総合的な学習の時間」の「①意義を理解してもらうため」が一番ポイントが高く、全体で 77.9％である。次に回答が多いのが、「③様子をともかく知らせるため」（63.3％）で、「⑥学校情報の一つとして知ってもらうため」（58.4％）、「②ゲストティーチャーなどの協力を得るため」（38.9％）、と続く（図 A-3-2-a 参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校を比較すると、特に差が大きいのは、「②ゲストティーチャーなどの協力を得るため」で、小学校が 37 ポイント高い（小学校 60.9％、中学校 23.9％）。次に差が大きいのが「③様子をともかく知らせるため」で、中学校が 15.1 ポイント高い（小学校 54.3％、中学校 69.4％）（図 A-3-2-a 参照）。

【「保護者対象に」と「保護者および地域の人々対象に」との比較】

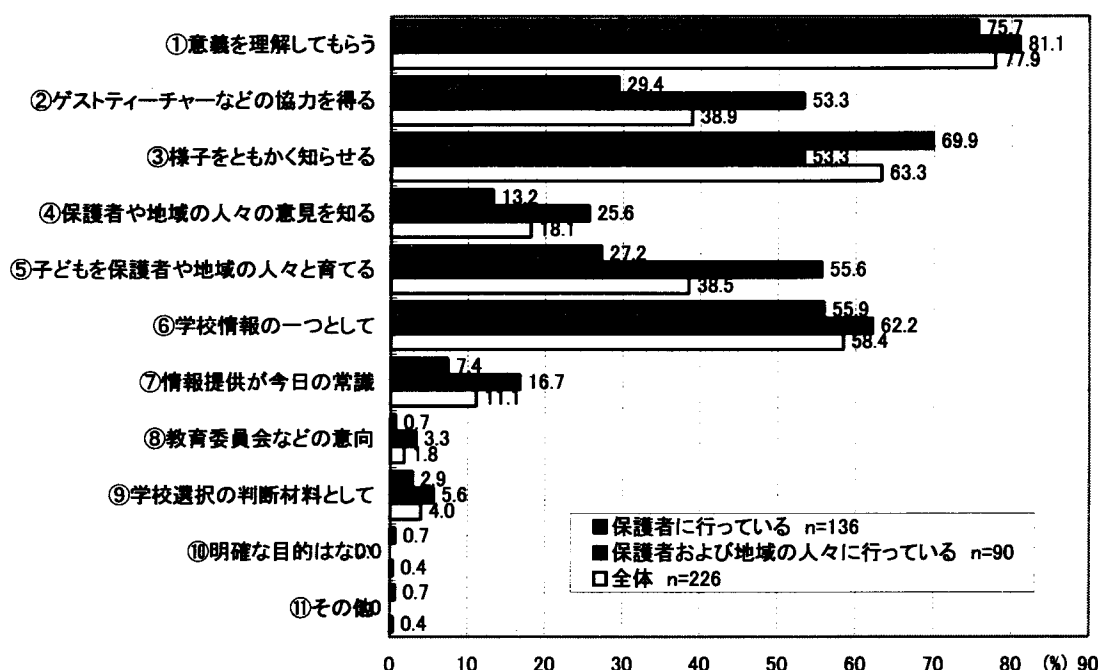


図 A-3-2-b 情報提供の目的

（「保護者対象」と「保護者および地域住民対象」との比較／複数回答）

図 A-3-2-b は、情報提供を「保護者対象に」行っていると回答した人と、「保護者および地域の人々対象に」行っていると回答した人との情報提供の目的の相違をみようとしたものである。保護者だけでなく地域の人々もターゲットにして情報提供を行っていると回答した人は、保護者（のみ）対象に情報提供を行っていると回答した人と比較して、次の項目のポイントが高かった。それは「⑤子どもを保護者や地域の人々と一緒に育てるため」（28.4 ポイント高）、「②ゲストティーチャーなどの協力を得るため」（23.9 ポイント高）である。

(3)「総合的な学習の時間」についての情報提供の方法

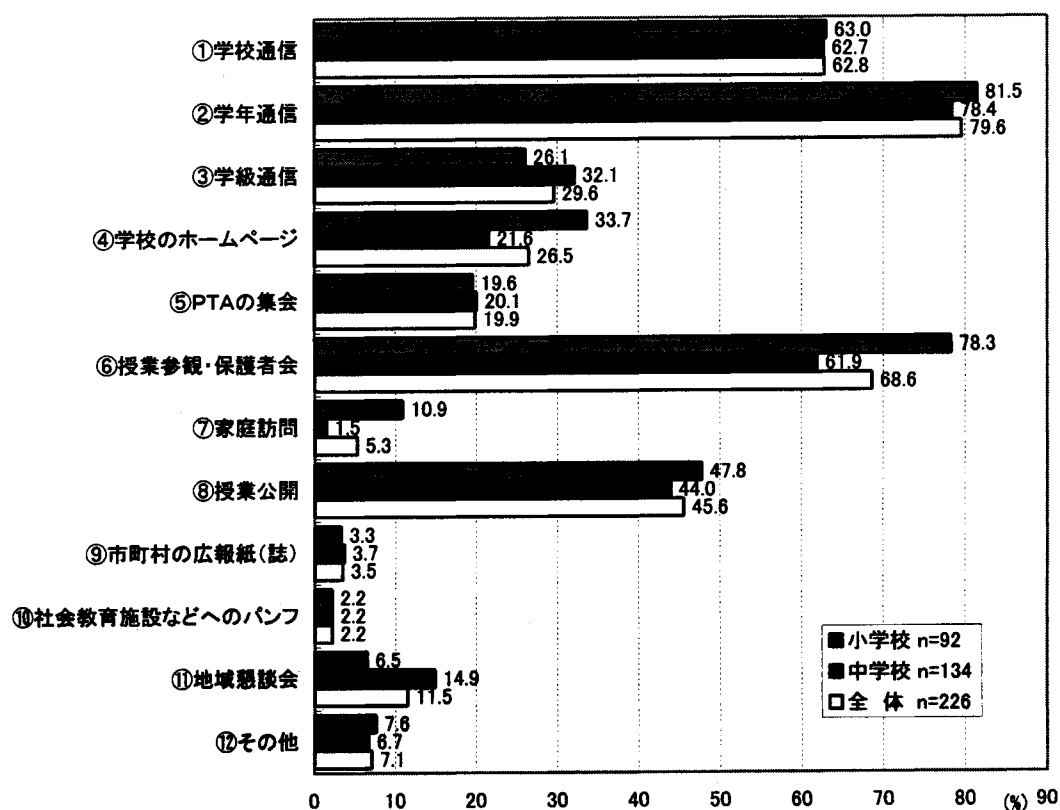


図 A-3-3-a 情報提供の方法（複数回答）

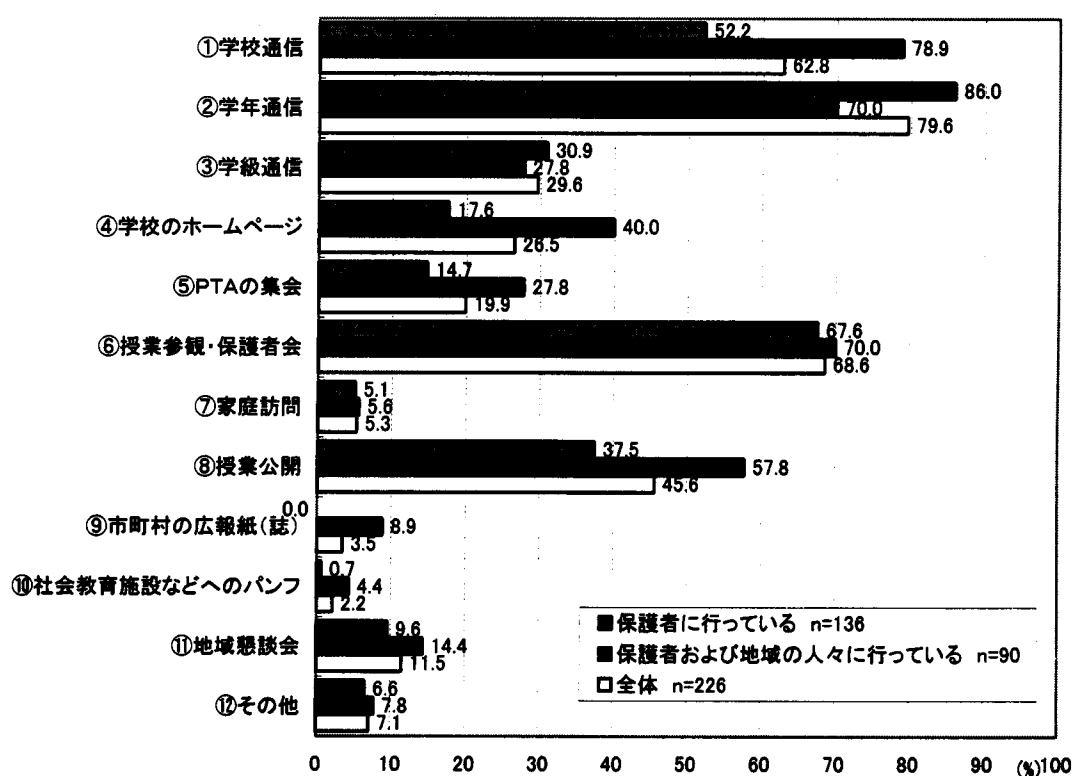
情報提供の媒体は、小学校、中学校とも「②学年通信」が一番多く（小学校 81.5%、中学校 78.4%）、次いで、「⑥授業参観・保護者会」（小学校 78.3%、中学校 61.9%）、「①学校通信」（小学校 63.0%、中学校 62.7%）、「⑧授業公開」（小学校 47.8%、中学校 44.0%）と続き、上位 4 位までは、小学校、中学校とも順位は同じである。

以上の上位 2 項目「②学年通信」「⑥授業参観・保護者会」は保護者への情報提供であり、保護者以外の地域の人々への情報提供の媒体としては、「①学校通信」、「⑧授業公開」、「④学校のホームページ」、「⑨市町村の広報紙」、「⑩社会教育施設などへのパンフレット」、「⑪地域懇談会」が考えられる。そのうち「①学校通信」「⑧授業公開」はポイントが高い。しかし、この 2 つは保護者向けでもあるので、地域に対しどれほど重点をおいているかは不明である（図 A-3-3-a 参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校を比較すると、差が大きいのは、「⑥授業参観・保護者会」で、小学校が 16.4 ポイント高い（小学校 78.3%、中学校 61.9%）（図 A-3-3-a 参照）。

【「保護者対象に」と「保護者および地域の人々対象に」との比較】



図

A-3-3-b 情報提供の方法

(「保護者対象」と「保護者および地域住民対象」との比較/複数回答)

図 A-3-3-b は、情報提供の媒体について、情報提供を「保護者対象に」行っていると回答した人と、「保護者および地域の人々対象に」行っていると回答した人との相違をみようとしたものである。「保護者および地域の人々対象に」つまり、保護者だけでなく地域の人々もターゲットにして情報提供を行ったと回答した人は、「保護者(のみ)対象に」情報提供を行ったと回答した人と比較して、次の項目のポイントが高かった。それは「①学校通信」(26.7 ポイント高)、「④学校のホームページ」(22.4 ポイント高)、「⑧授業公開」(20.3 ポイント高)である。

(4) 「総合的な学習の時間」についての情報提供に対する反応の把握方法

情報提供に対する反応の把握方法は、「②授業参観・保護者会で」が一番多く全体で 60.2%を占めている。次は「⑩PTA 役員から」で 31.0%である(図 A-3-4 参照)。

【校種間比較】

小学校と中学校とを比較すると、把握方法で差が大きいのは次のものである。「③保護者からの連絡ノートや感想で把握する」が、小学校が 16.9 ポイント高(小学校 34.8%、中学校 17.9%)、「⑤学校のホームページ」が、小学校が 12.2 ポイント高(小学校 15.2%、中学校 3.0%)、「⑩PTA 役員から」が、中学校が 10.1 ポイント高(小学校 25.0%、中学校 35.1%)である(図 A-3-4 参照)。

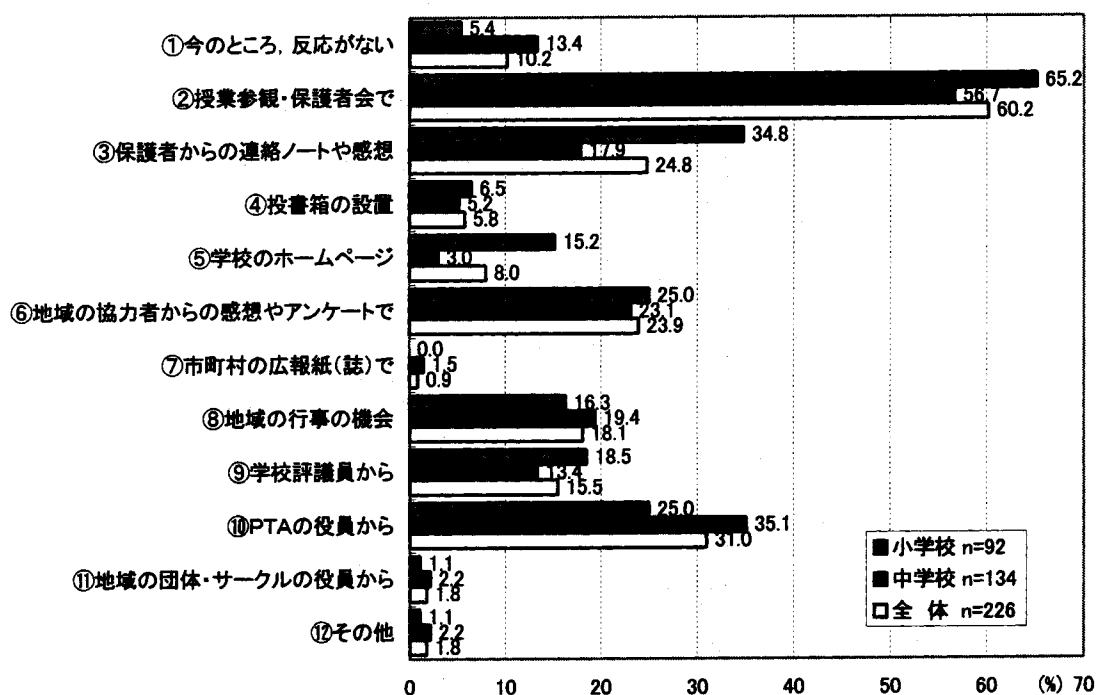


図 A-3-4 情報提供に対する反応の把握方法（複数回答）

（５）「総合的な学習の時間」についての情報提供に対する反応

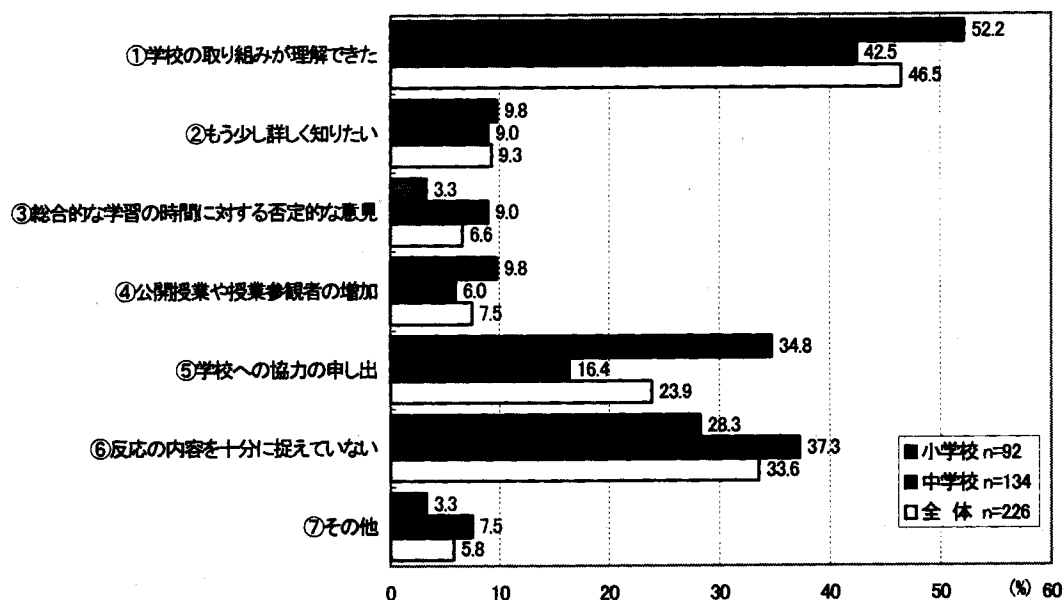


図 A-3-5 情報提供に対する反応（複数回答）

一番多いのが「①学校の取り組みが理解できた」で、全体で 46.5%を占めている。次に多いのが「⑥反応はあったが十分に内容を捉えていない」で 33.6%である（図 A-3-5 参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校とを比較すると、差が大きいのは、「⑤学校への協力の申し出があった」で小学校は中学校より 18.4 ポイント高い（小学校 34.8%、中学校 16.4%）（図 A-3-5 参照）。

（6）「総合的な学習の時間」についての情報提供を行わない理由

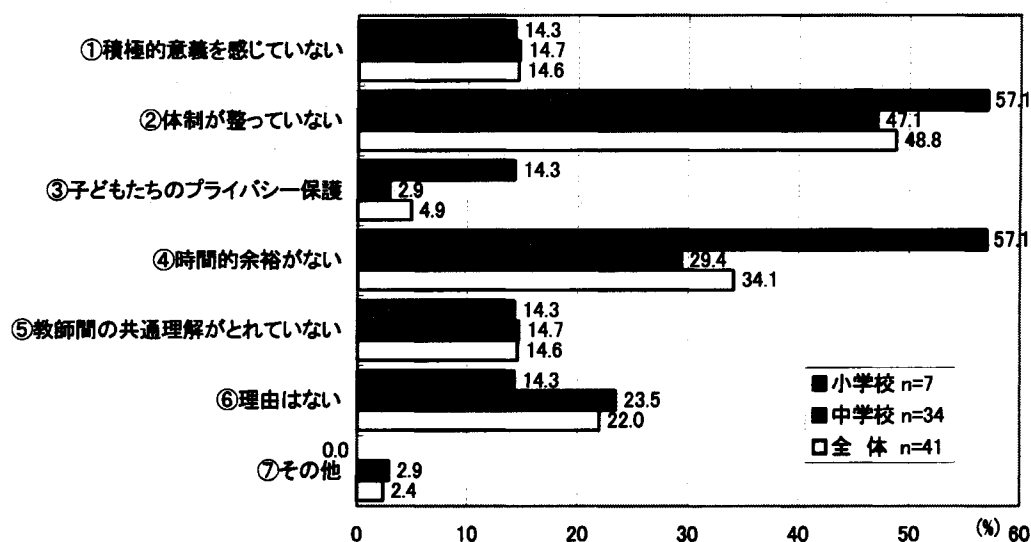


図 A-3-6 情報提供を行わない理由（複数回答）

「総合的な学習の時間」についての情報提供を行わないと回答した人は、41 人であった。その理由は、「②知らせる体制が整っていない」が最も多く 48.8%である。次に「④知らせる時間的余裕がないため」で 34.1%である。「①積極的意義を感じていない」は 14.6%で低く、このことから、情報提供を行わないと答えた多くの人は、情報提供の意義を感じないからではなく、条件面で問題があると考えていることが分かる（図 A-3-6 参照）。

4. 「総合的な学習の時間」以外の面での地域社会との連携について

(1) 「総合的な学習の時間」以外で地域社会と連携・協力している活動

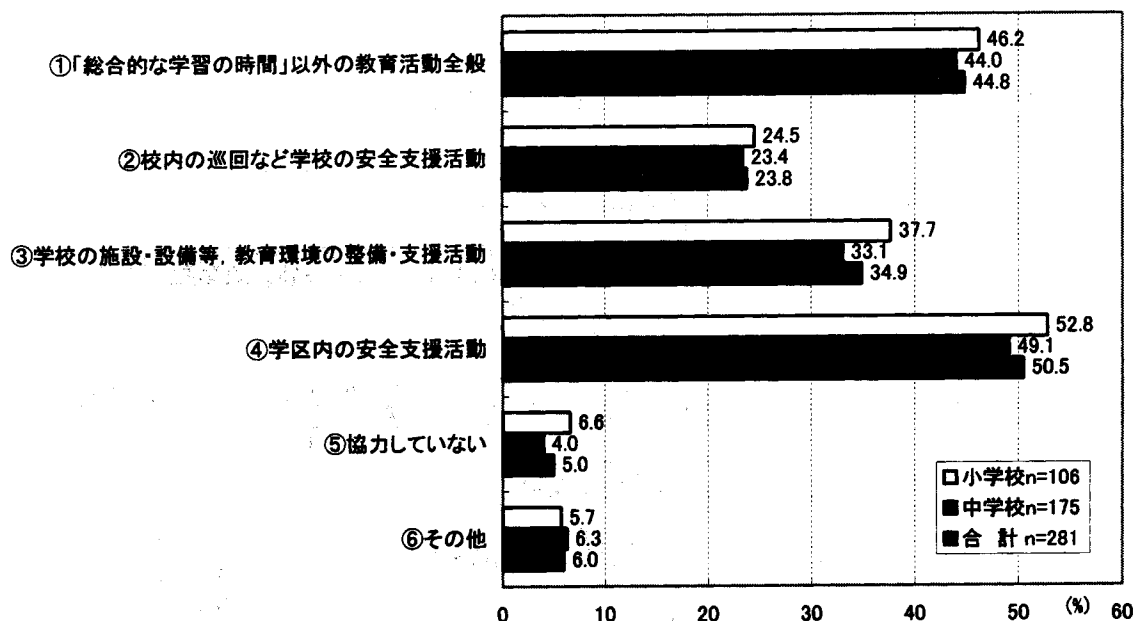


図 A-4-1 地域社会と連携・協力している活動（複数回答）

全体的な傾向として、「⑤協力していない」（5.0％）を除くと、95％の教師は、何らかの活動で連携・協力していると捉えている。その具体的な活動として、「④学区内の安全支援活動」（50.5％）が50％を超えて、最もポイントが高かった。以下、「①「総合的な学習の時間」以外の教育活動全般」（44.8％）、「③学校の施設・設備等、教育環境の整備・支援活動」（34.9％）、「②校内の巡回など学校の安全支援活動」（23.8％）と続いた。また、「⑥その他」（6.0％）の回答には、地域清掃に関するものが多かった（図 A-4-1 参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校を比較すると、小中学校ともに、全体の結果と同様であり、ポイントの高かった項目は、「④学区内の安全支援活動」、「①「総合的な学習の時間」以外の教育活動全般」、「③学校の施設・設備等、教育環境の整備・支援活動」、「②校内の巡回など学校の安全支援活動」の順であった。これらの項目について、小中学校間で、項目ごとのポイントに大きな差はなかったが、「⑥その他」を除くすべての項目において、小学校の方がポイントが高かった（図 A-4-1 参照）。

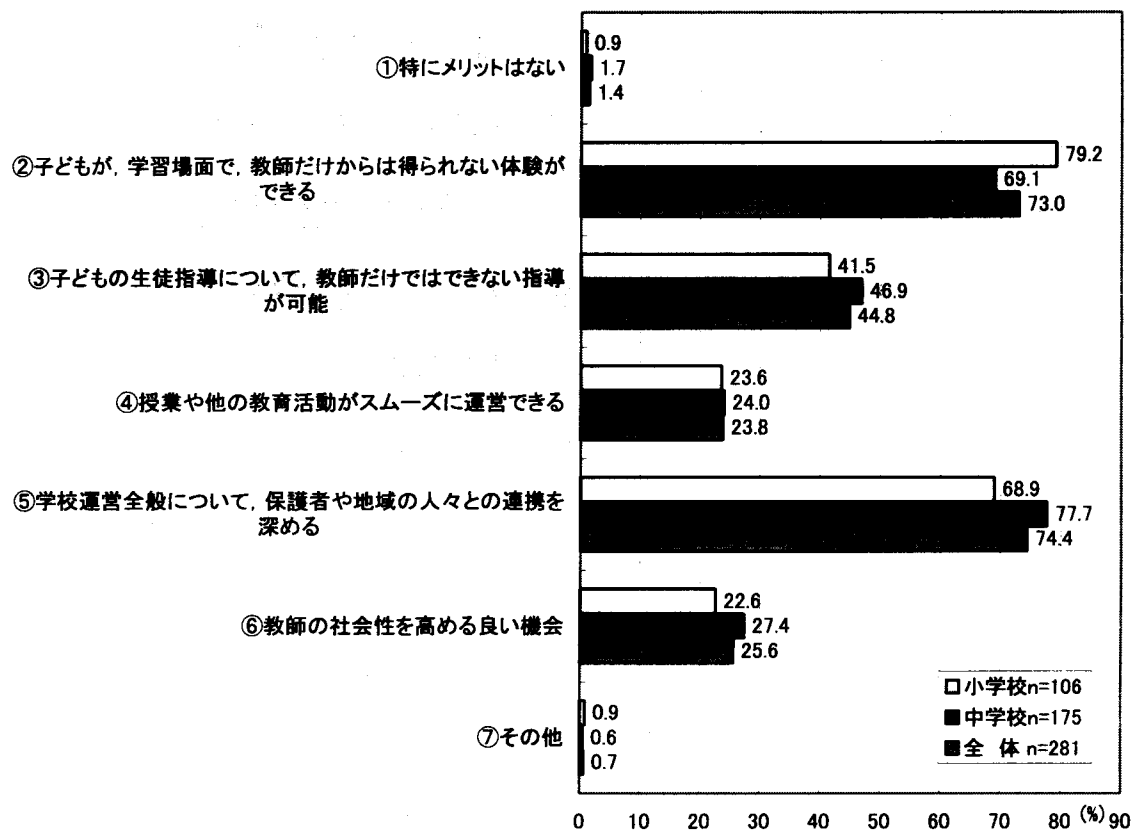
(2) 「総合的な学習の時間」以外で保護者や地域の人々から協力を得るメリット

全体としては、「①特にメリットはない」（1.4％）を除くと、98％以上の教師が、保護者や地域の人々から協力を得ることにメリットがあると捉えている。具体的なメリットとして、「⑤学校運営全般について、保護者や地域の人々との連携を深める」（74.4％）と「②子どもが、学習場面で、教師だけからは得られない体験ができる」（73.0％）について、70％以上がメリットとして回答している。また、「③子どもの生徒指導について、教師だけでは

できない指導が可能になる」(44.8%)ことを40%以上の教師が、「④授業や他の教育活動がスムーズに運営できる」(23.8%)と「⑥教師の社会性を高める良い機会」(25.6%)ことに関して約25%の教師がメリットであるとしている。(図A-4-2参照)。

【校種間比較】

小学校と中学校を比べると、「②子どもが、学習場面で、教師だけでは得られない体験ができる」(小学校79.2%、中学校69.1%)で小学校が約10ポイント、「⑤学校運営全般について、保護者や地域の人々との連携を深める」(小学校68.9%、中学校77.7%)で中学校が約9ポイント高かった。また、「③子どもの生徒指導について、教師だけではできない指導が可能」(小学校41.5%、中学校46.9%)、「⑥教師の社会性を高める良い機会」(小学校22.6%、中学校27.4%)で約5ポイント、中学校の方がポイントが高かった(図A-4-2参照)。



図A-4-2 保護者や地域の人々から協力を得るメリット(複数回答)

(3)「総合的な学習の時間」以外で保護者や地域の人々から協力を得る際の留意点

全体的な回答としては、「①特に留意する必要はない」(1.1%)を除くと、98%以上の教師が、何らかの点で留意すべきことがあると捉えている。具体的には、「④協力してもらう内容について、事前に十分に理解してもらう」(79.0%)と「③相手の都合を十分に考慮して依頼・交渉する」(77.2%)ことを約80%の教師が、「⑥日頃から公開授業や学校便りなどで、学校の状況を保護者や地域の人々に伝えておく」(67.6%)と「⑤日頃から保護者や地域の実態をよく知っておく」(64.1%)ことを約65%の教師が、「②協力を得るための

計画・手順について、学校全体で決めておく」(58.0%)と「⑦日頃から保護者や地域の人々との交流に努める」(58.0%)ことを約60%の教師が、留意することとして回答している。また、「⑧子どもに学校外の人々との接し方のノウハウを教える」(37.4%)と「⑨学校独自の人材リストを作っておく」(37.7%)は約40%に留まっており、比較的ポイントが小さかった(図A-4-3参照)。

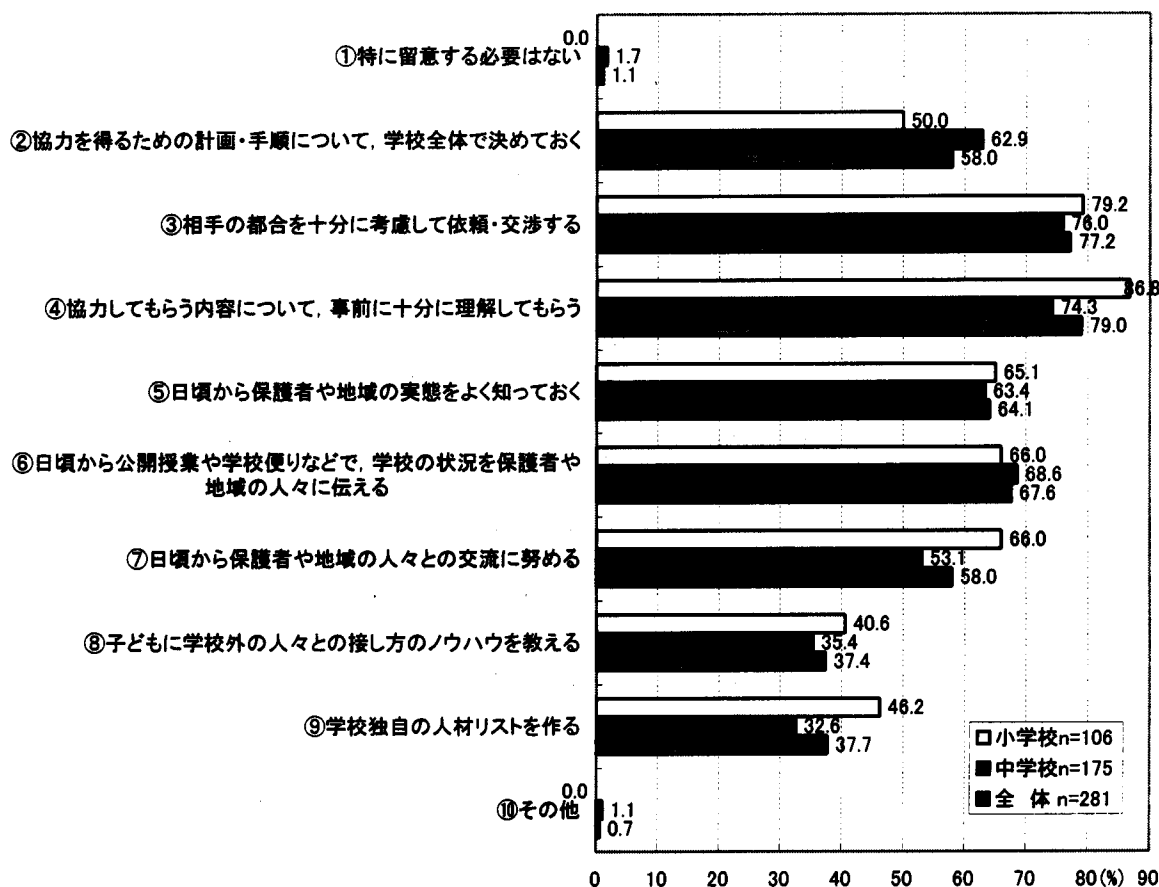


図 A-4-3 保護者や地域の人々から協力を得る際の留意点（複数回答）

【校種間比較】

小学校と中学校で比較してみると、「②協力を得るための計画・手順について、学校全体で決めておく」(小学校 50.0%、中学校 62.9%)、「④協力してもらう内容について、事前に十分に理解してもらう」(小学校 86.8%、中学校 74.3%)、「⑦日頃から保護者や地域の人々との交流に努める」(小学校 66.0%、中学校 53.1%)、「⑨学校独自の人材リストを作る」(小学校 46.2%、中学校 32.6%)で10ポイント以上の差があり、「②協力を得るための計画・手順について、学校全体で決めておく」は中学校の方が、「④協力してもらう内容について、事前に十分に理解してもらう」、「⑦日頃から保護者や地域の人々との交流に努める」、「⑨学校独自の人材リストを作る」は小学校の方がポイントが高かった。なお、上記以外の項目では、小中学校間の開きは約3～5ポイントであり、その差は小さかった(図A-4-3参照)。

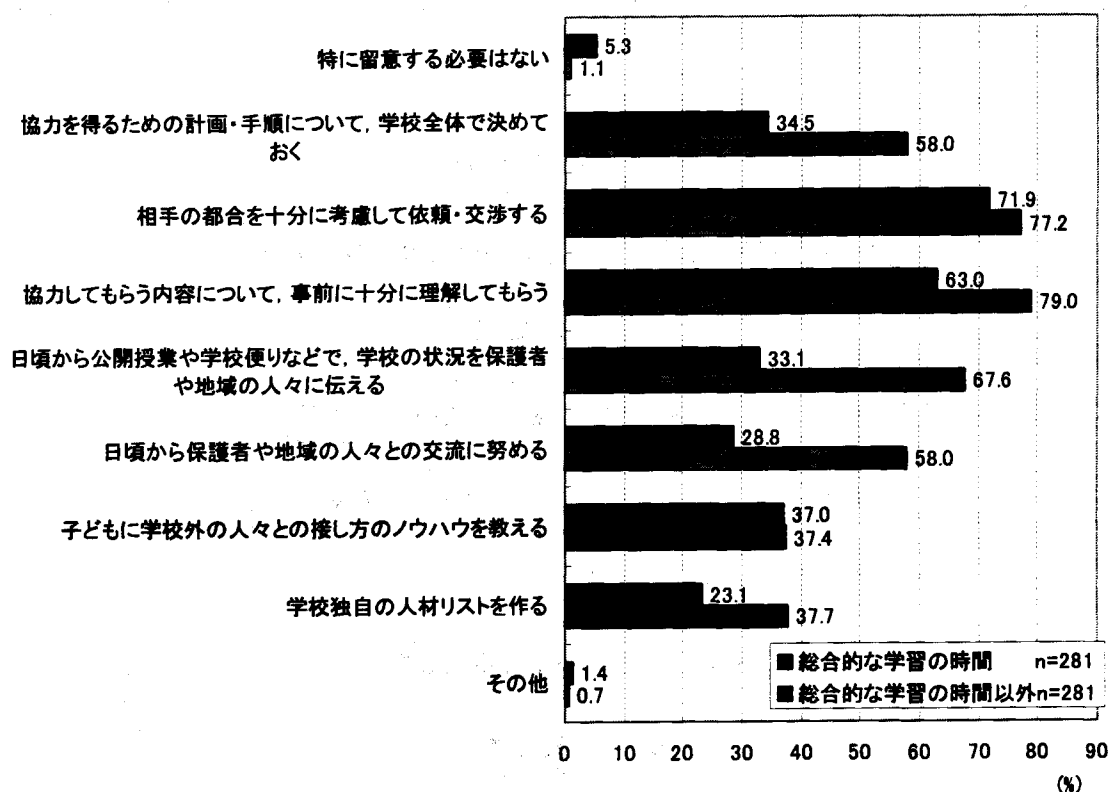


図 A-4-4 保護者や地域の人々から協力を得る際の留意点
(「総合的な学習の時間」と「総合的な学習の時間」以外の比較)

【項目 2. - (3) と項目 4. - (3) の比較】

保護者や地域の人々から協力を得る際の留意点について、「総合的な学習の時間」と「総合的な学習の時間」以外を比較した際に、教師の意識にいかなる差異が表れているのかをみてる。なお、選択肢の番号が項目 2. - (3) と項目 4. - (3) で一致しないため、番号表記は省略する。また、選択肢の文章表現も若干違うため、本稿では、「総合的な学習の時間」以外に合わせるものとする。

「日頃から公開授業や学校便りなどで、学校の状況を保護者や地域の人々に伝える」(「総合的な学習の時間」33.1%、「総合的な学習の時間」以外 67.6%) で約 35 ポイント、「日頃から保護者や地域の人々との交流に努める」(「総合的な学習の時間」28.8%、「総合的な学習の時間」以外 58.0%) で約 30 ポイント、「協力を得るための計画・手順について、学校全体で決めておく」(「総合的な学習の時間」34.5%、「総合的な学習の時間」以外 58.0%) で 20 ポイント以上、「総合的な学習の時間」以外の方がポイントが高かった。また、「協力してもらう内容について、事前に十分に理解してもらう」(「総合的な学習の時間」63.0%、「総合的な学習の時間」以外 79.0%) と「学校独自の人材リストを作る」(「総合的な学習の時間」23.1%、「総合的な学習の時間」以外 37.7%) においても約 15 ポイント、「総合的な学習の時間」以外の方がポイントが高かった。(図 A-4-4 参照)。

(4)「総合的な学習の時間」以外で保護者や地域の人々と連携・協力した活動をする際に
難しいこと

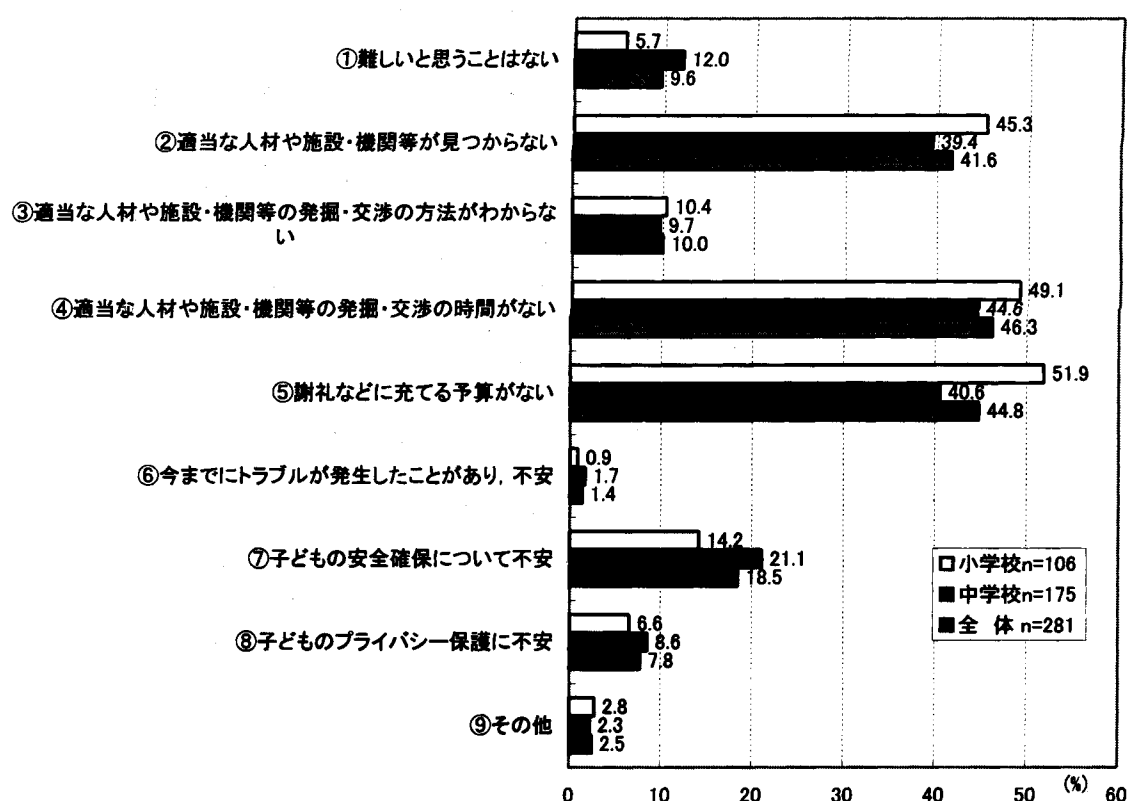


図 A-4-5 保護者や地域の人々と連携・協力した活動をする際に難しいこと（複数回答）

全体的な回答としては、「①難しいと思うことはない」（9.6％）を除くと、90％以上の教師は難しさを感じていることがわかる。具体的な難しさとして、「④適当な人材や施設・機関等の発掘・交渉の時間がない」（46.3％）と「⑤謝礼などに充てる予算がない」（44.8％）ことを約45％の教師が、「②適当な人材や施設・機関等が見つからない」（41.6％）ことを40％以上の教師が挙げていた。それらに続く「⑦子どもの安全確保について不安」（18.5％）とは20ポイント以上の開きがあった。他方、「③適当な人材や施設・機関等の交渉・発掘の方法がわからない」（10.0％）や「⑧子どものプライバシー保護に不安がある」（7.8％）は10％前後であり、「⑥今までにトラブルが発生して問題になったことがあり、不安である」（1.4％）も含めて、これら3項目のポイントは比較的小さかった。なお、「⑨その他」（2.5％）の具体的な内容としては、“時間”に関する記述が多かった。これらの結果から、教師は、時間とお金、人材・機関の調整に難しさを感じているようである（図 A-4-5 参照）。

【校種間比較】

小学校と中学校を比較すると、「⑤謝礼などに充てる予算がない」（小学校 51.9％、中学校 40.6％）で、小学校が10ポイント以上高かった。また、「⑦子どもの安全確保について不安」（小学校 14.2％、中学校 21.1％）では約7ポイント、中学校の方が高かったが、この項目も含めて、他の項目では大きな差はなかった。謝礼を除けば、小中学校間で、難しいと思うことに大きな開きはないようである（図 A-4-5 参照）。

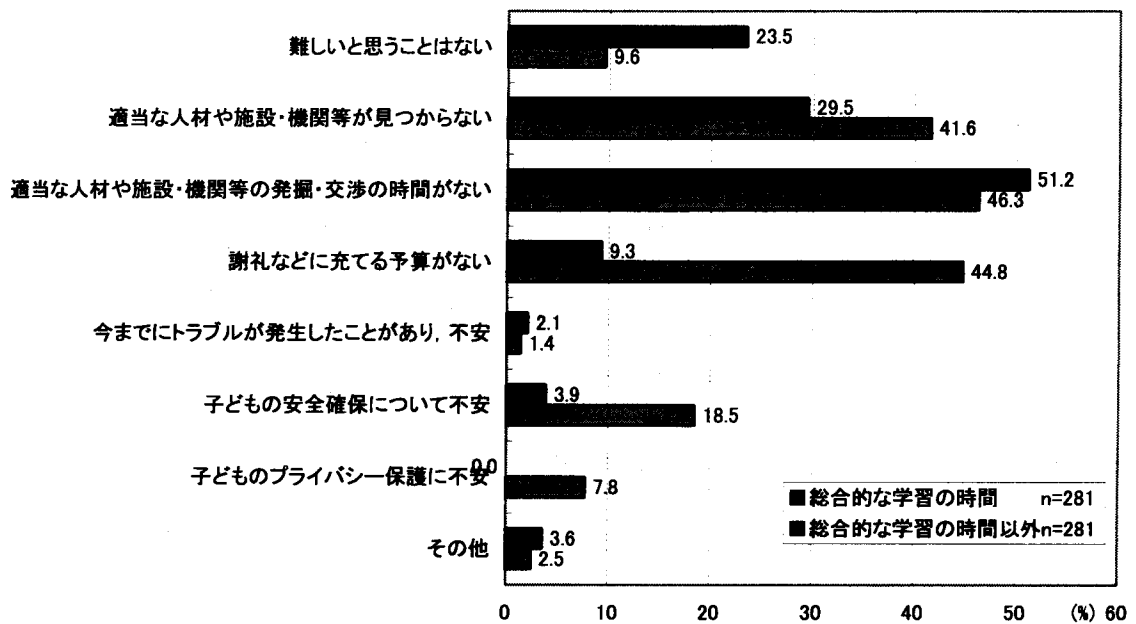


図 A-4-6 保護者や地域の人々と連携・協力した活動をする際に難しいこと
 (「総合的な学習の時間」と「総合的な学習の時間」以外の比較)

【項目 2. - (4) と項目 4. - (4) の比較】

前述した項目【2. - (3) と項目 4. - (3) の比較】と同様の方法で、「総合的な学習の時間」と「総合的な学習の時間」以外を比較して、保護者や地域の人々と連携・協力した活動をする際の難しさの捉え方に、どのような違いがあるのかをみる。

「謝礼などに充てる予算がない」(「総合的な学習の時間」9.3%、「総合的な学習の時間」以外 44.8%) で約 35 ポイント、「総合的な学習の時間」以外の方がポイントが高かった。また、「適当な人材や施設・機関等が見つからない」(「総合的な学習の時間」29.5%、「総合的な学習の時間」以外 41.6%) と「子どもの安全確保について不安がある」(「総合的な学習の時間」3.9%、「総合的な学習の時間」以外 18.5%) でも、「総合的な学習の時間」以外の方が 10～15 ポイント高かった。「難しいと思うことはない」(「総合的な学習の時間」23.5%、「総合的な学習の時間」以外 9.6%) については、「総合的な学習の時間」の方が約 15 ポイント高かった。(図 A-4-6 参照)。

(5) 勤務校の地域の様子を知るためにしていること

全体的な回答では、「①何もしていない」(8.2%)を除くと、90%以上の教師は、何らかの活動によって地域の様子を知ろうとしている。具体的には、「②家庭訪問を必要に応じて行う」(42.3%)、「③地域を歩く」(41.6%)という回答が 40%を超えていた。以下、「④地域の行事、社会教育の講座・行事等に参加する」(35.2%)、「⑤地域懇談会に参加する」(30.2%)、「⑥広報等の地域のお知らせや資料を収集する」(24.6%)となった(図 A-4-7 参照)。

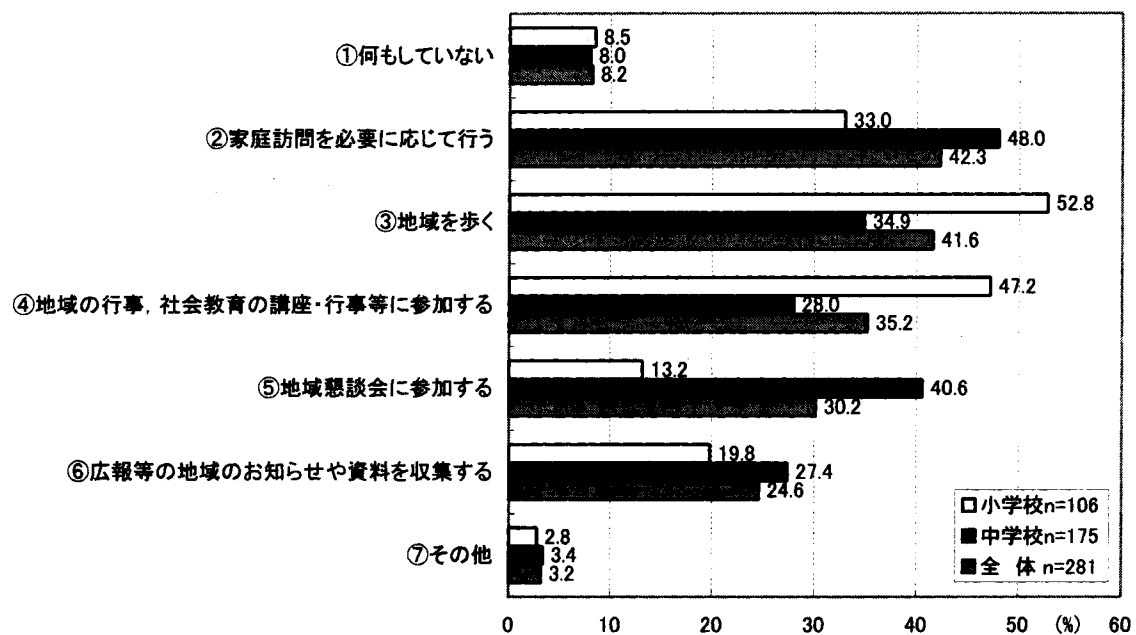


図 A-4-7 勤務校の地域の様子を知るためにしていること（複数回答）

【校種間比較】

小学校と中学校を比較すると、「⑤地域懇談会に参加する」（小学校 13.2%、中学校 40.6%）で、中学校の方が 25 ポイント以上高かった。また、「②家庭訪問を必要に応じて行う」（小学校 33.0%、中学校 48.0%）と「③地域を歩く」（小学校 52.8%、中学校 34.9%）、「④地域の行事、社会教育の講座・行事等に参加する」（小学校 47.2%、中学校 28.0%）で 15～20 ポイントの開きがあり、「②家庭訪問を必要に応じて行う」は中学校の方が、「③地域を歩く」、「④地域の行事、社会教育の講座・行事等に参加する」は小学校の方がポイントが高かった。（図 A-4-7 参照）。

（6）勤務校の地域で自発的に協力・支援している活動

全体的な回答としては、「①何もしたことがない」（26.7%）を除くと、70%以上の教師が地域で自発的に協力・支援活動をしていることがわかる。具体的な活動としては、「⑨PTA 活動」（39.1%）をしている教師が約 40%で最も多く、以下、「⑦自然・環境を美化・保護する活動」（22.4%）と「④子どもに対するスポーツ・レクリエーションなどの支援」（18.9%）が約 20%で続いた。「⑩その他」（2.8%）の具体的な内容としては、地域の行事に関する回答が多かった（図 A-4-8 参照）。

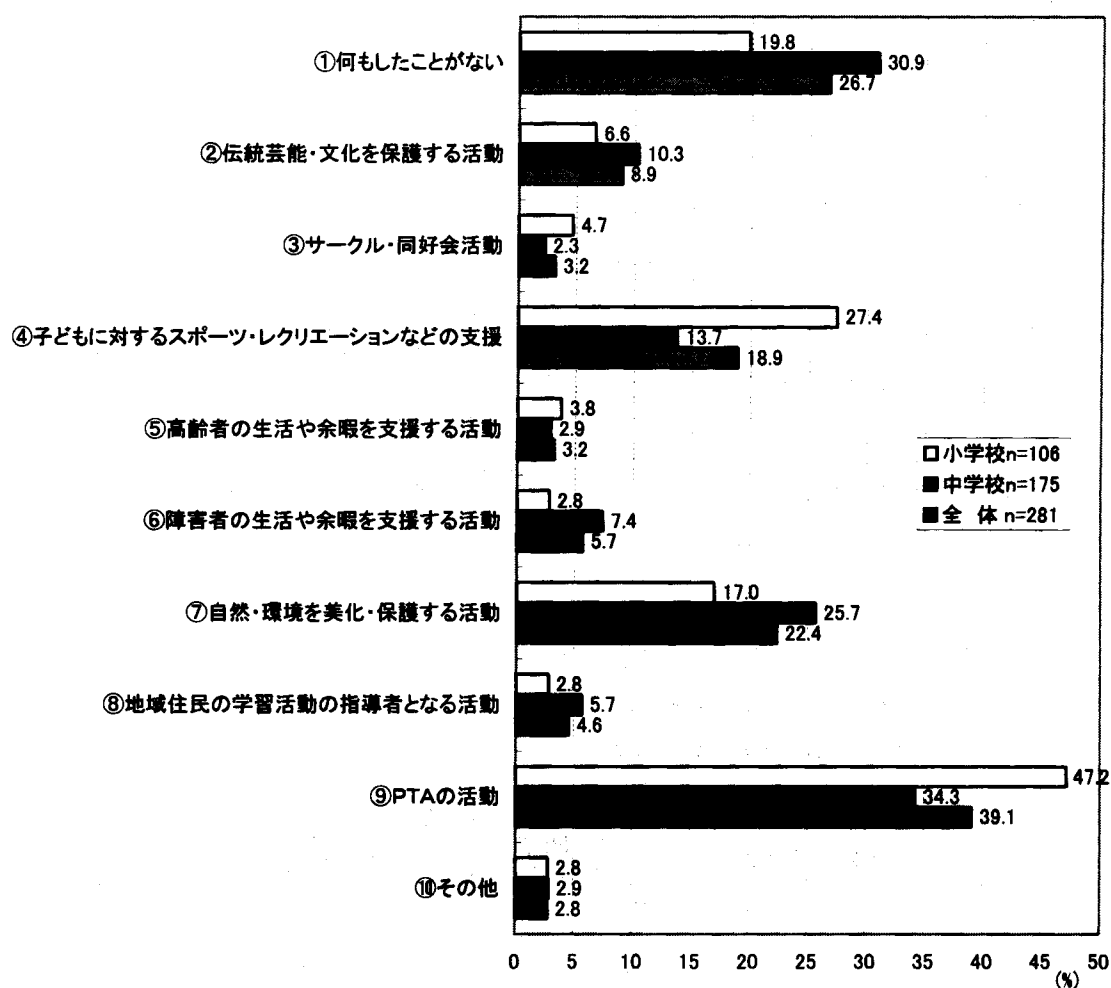


図 A-4-8 勤務校の地域で自発的に協力・支援している活動（複数回答）

【校種間比較】

小学校と中学校で比べてみると、「①何もしたことがない」（小学校 19.8%、中学校 30.9%）と「④子どもに対するスポーツ・レクリエーションなどの支援」（小学校 27.4%、中学校 13.7%）、「⑦自然・環境を美化・保護する活動」（小学校 17.0%、中学校 25.7%）、「⑨PTA の活動」（小学校 47.2%、中学校 34.3%）で約 10 ポイントの差があった。「①何もしたことがない」、「⑦自然・環境を美化・保護する活動」は中学校の方が、「④子どもに対するスポーツ・レクリエーションなどの支援」、「⑨PTA の活動」は小学校の方がポイントが高かった。この結果から、「⑨PTA の活動」は両者に共通してポイントの高い回答であり、それに加えて小学校の教師は「④子どもに対するスポーツ・レクリエーションなどの支援」による活動を、中学校の教師は「⑦自然・環境を美化・保護する活動」を地域で比較的行っていることがわかる。

B. 保護者・地域住民に対する調査

1. 「総合的な学習の時間」について

(1) 「総合的な学習の時間」とはどのような学習か

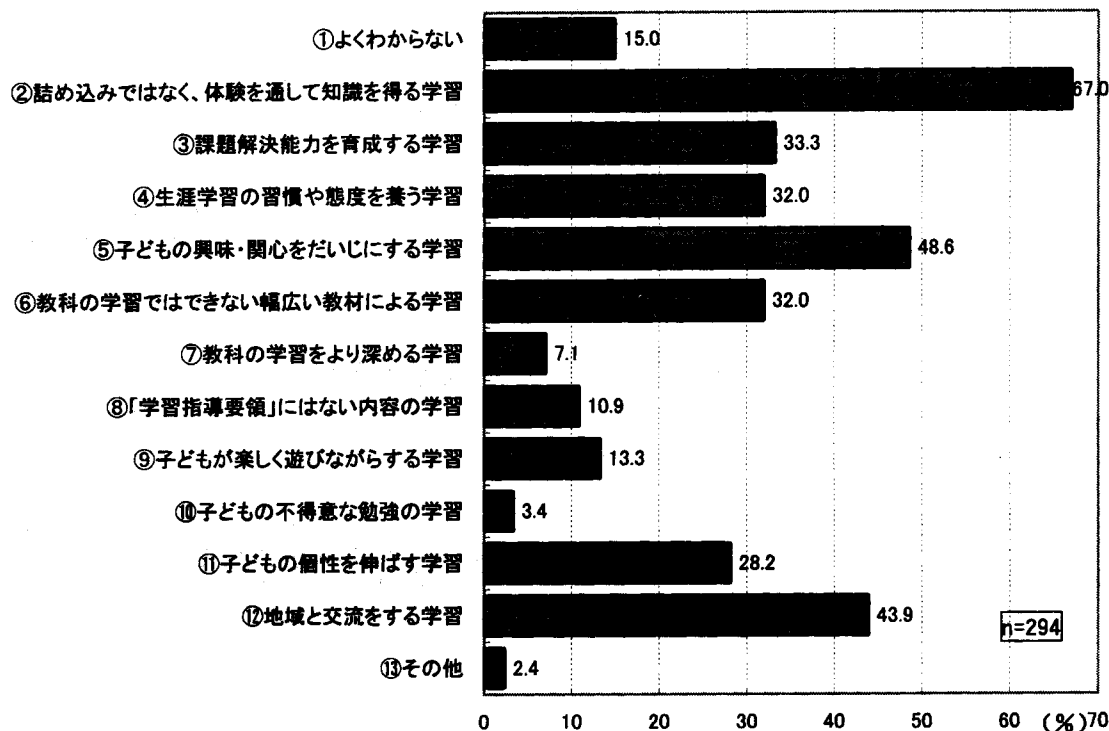


図 B-1-1 「総合的な学習の時間」とはどのような学習か（複数回答）

ポイントが高いのは、「②詰め込みではなく体験を通して知識を得る学習」(67.0%)、「⑤子どもの興味関心をだいにする学習」(48.6%)、「⑫地域と交流をする学習」(43.9%)の順であった(図 B-1-1 参照)。

(2) 「総合的な学習の時間」についての感想

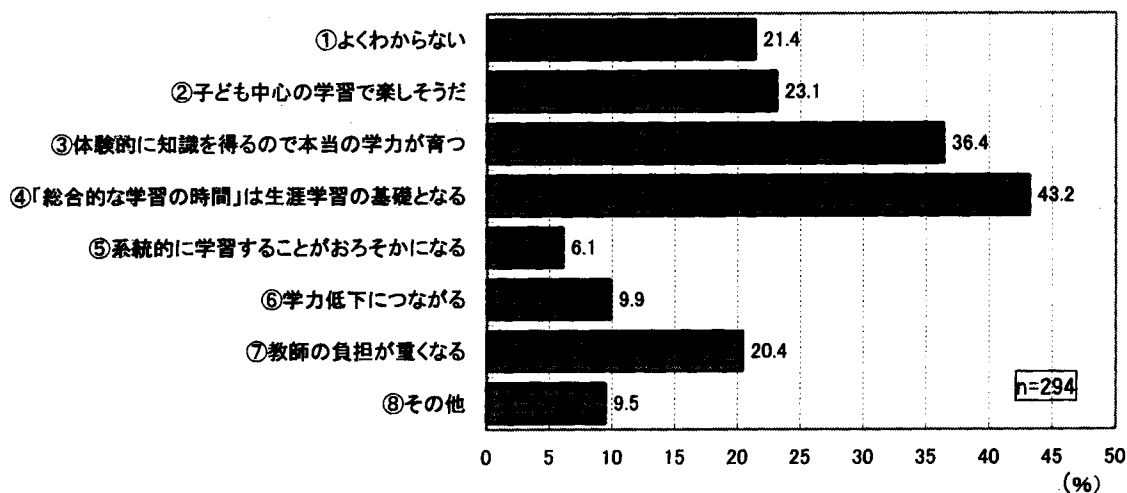
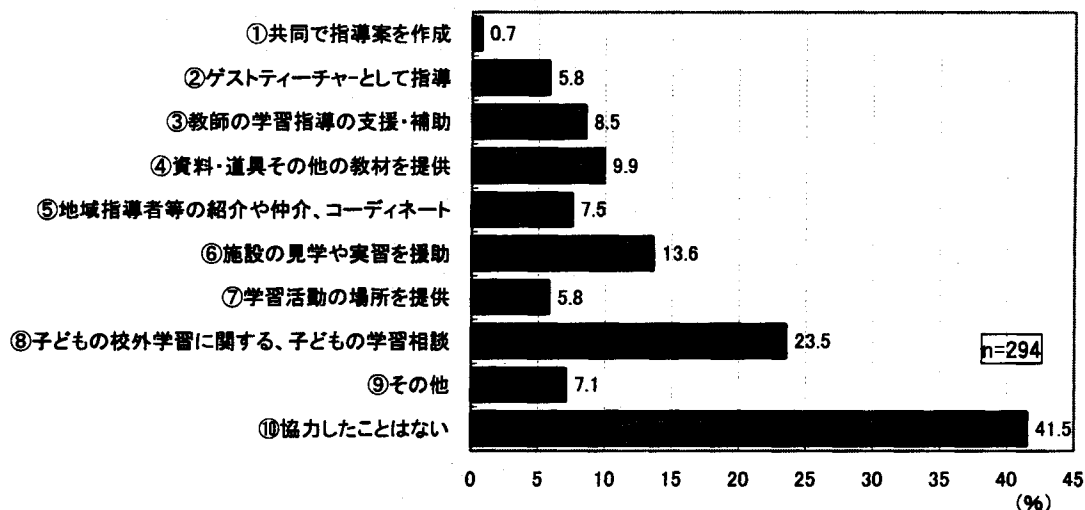


図 B-1-2 「総合的な学習の時間」についての感想（複数回答）

ポイントが高いのは、「④『総合的な学習の時間』は生涯学習の基礎となる」(43.2%)
「③体験的に知識を得るので本当の学力が育つ」(36.4%)の順であった(図B-1-2参照)。

2. 「総合的な学習の時間」における協力の現状

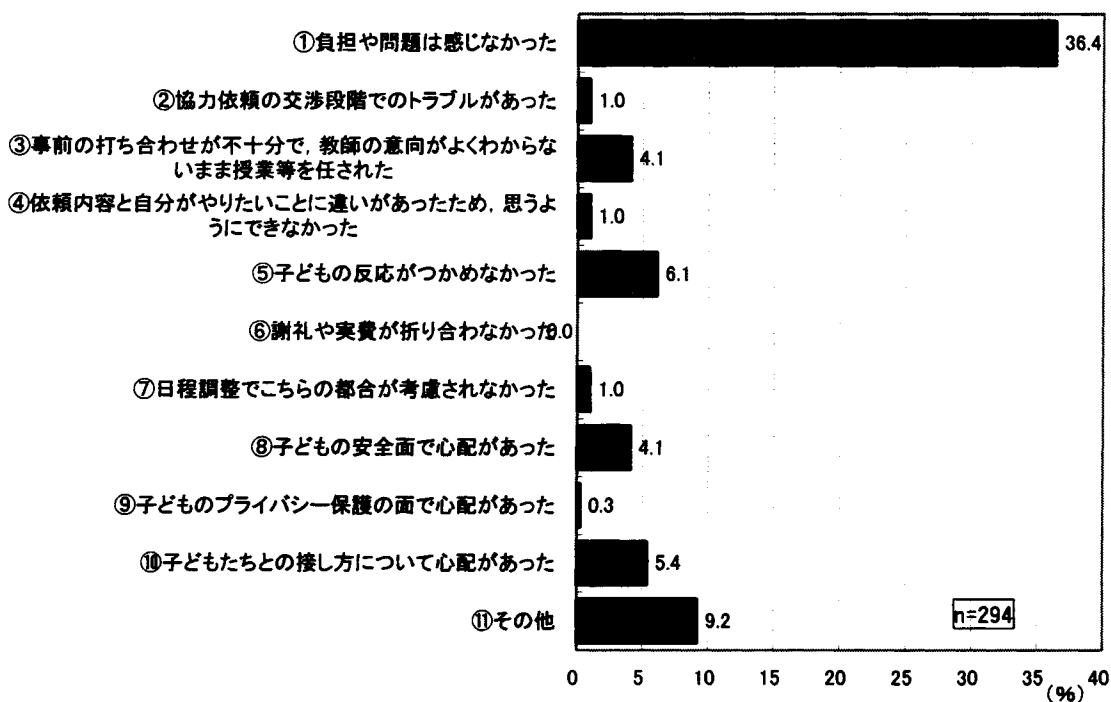
(1) 「総合的な学習の時間」の授業における協力の内容



図B-2-1 協力の内容(複数回答)

ポイントが高いのは、「⑩協力をしたことはない」(41.5%)、「⑧子どもの校外学習に関する、子どもの学習相談」(23.5%)の順であった(図B-2-1参照)。

(2) 「総合的な学習の時間」で協力したときに感じた問題点



図B-2-2 協力したときに感じた問題点(複数回答)

もっともポイントが高いのは「①負担や問題は感じなかった」(36.4%)である(図 B-2-2 参照)。

(3)「総合的な学習の時間」での協力にあたり、学校側に望むこと

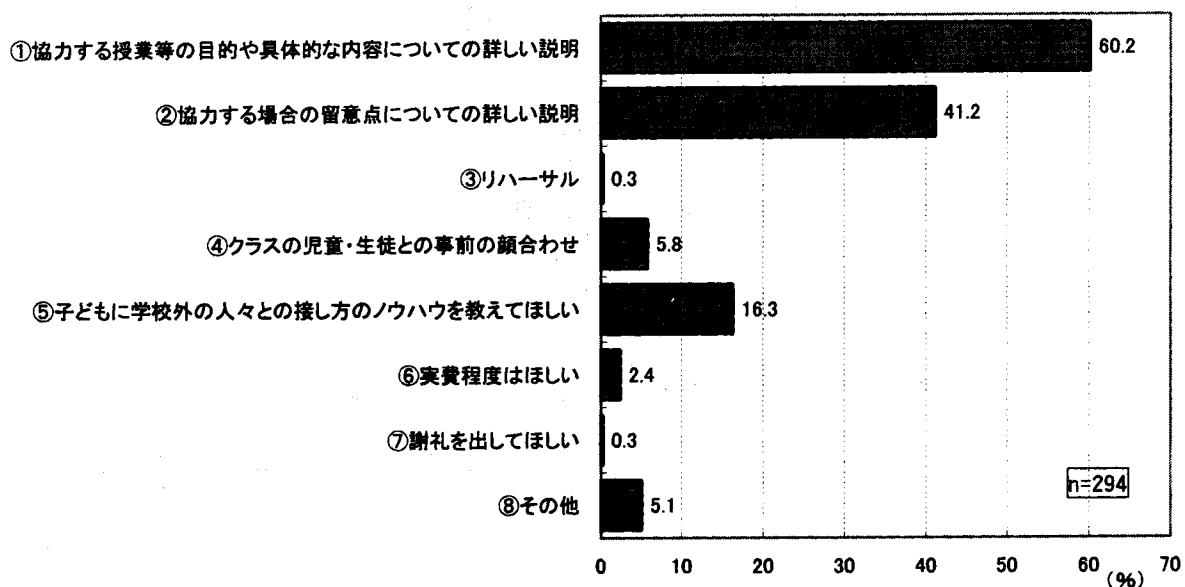


図 B-2-3 協力にあたり、学校側に望むこと(複数回答)

ポイントが高いのは、「①協力する授業の目的や具体的な内容についての詳しい説明」(60.2%)、「②協力する場合の留意点についての詳しい説明」(41.2%)であった(図 B-2-3 参照)。

3. 「総合的な学習の時間」以外での学校教育への協力の現状について

(1) 市町村や学校教育の人材バンクの登録状況

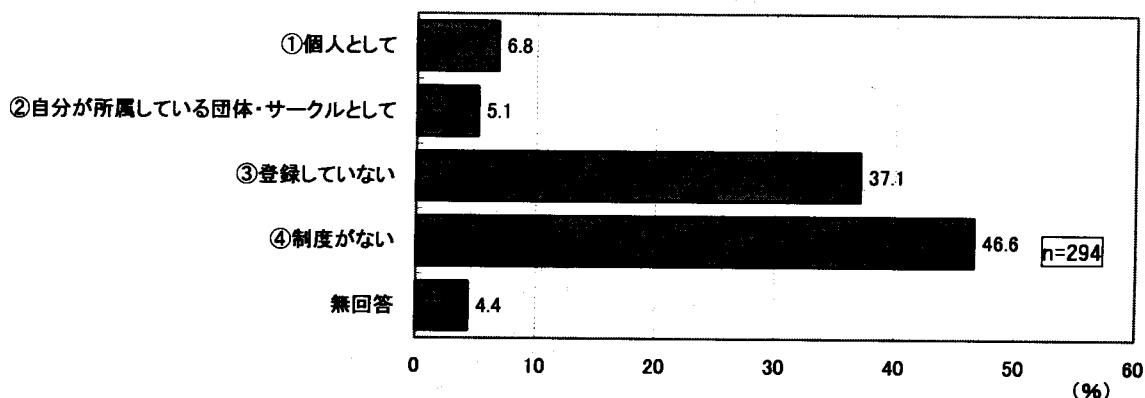


図 B-3-1 市町村や学校教育の人材バンクの登録状況

全体的な回答をみると、「④制度がない(知らない)」(46.6%)、「③登録していない」(37.1%)、「①個人として登録」(6.8%)、「団体・サークルとして登録」(5.1%)の順であった。これらの回答からは、個人登録と団体登録を合わせても 12%にとどまり、人材バンクに対する登録状況はあまり進んでいないことがわかる。(図 B-3-1 参照)。

(2) 学校教育への協力形態

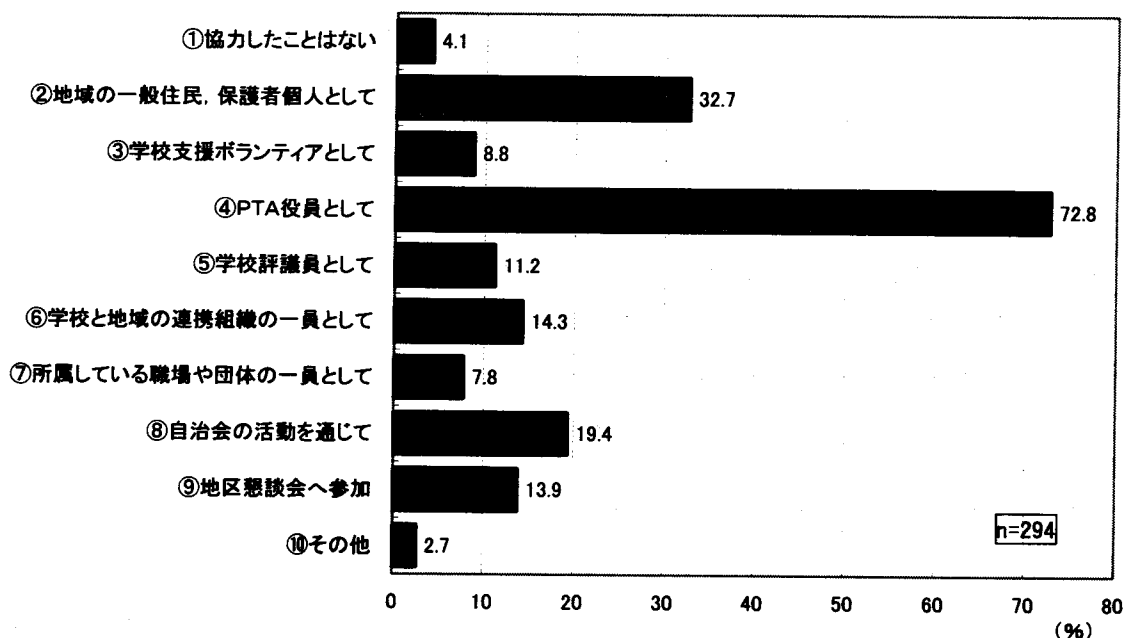


図 B-3-2 学校教育への協力形態 (複数回答)

全体的な回答をみると、95%を超える人が何らかの形で協力していることがわかる。協力の内容については、「④PTA役員として協力」(72.8%)、「②地域住民・保護者として

協力」(32.7%)、「⑧自治会活動を通じて協力」(19.4%)、「⑥学校と地域の連携組織の一員として協力」(14.3%)、「地区懇談会へ参加」(13.9%)の順であった。「学校支援ボランティアとして協力」(8.8%)、「職場や団体の一員として協力」(7.8%)は 10%に満たず、全体としては、個人として学校教育に協力していることがわかる。(図 B-3-2 参照)。

(3) 学校教育との連携・協力内容

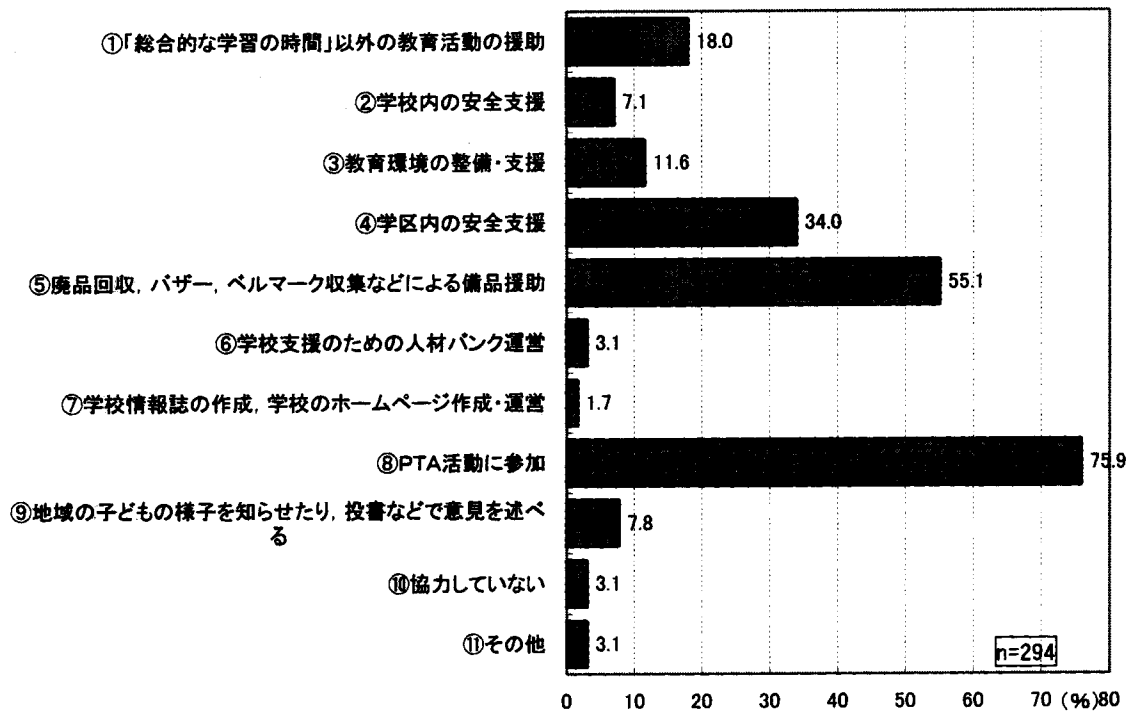


図 B-3-3 学校教育との連携・協力内容（複数回答）

全体的な回答をみると、「⑩協力していない」(3.1%)を除くと、約 97%の保護者や地域の人たちは何らかの活動で連携・協力していると捉えている。その具体的な活動として、「⑧PTA 活動に参加」(75.9%)が、70%を超えて最もポイントが高かった。次いで「⑤廃品回収、バザー、ベルマーク収集などによる備品援助」(55.1%)、「①『総合的な学習の時間』以外の教育活動」(18.0%)「教育環境整備・支援」(11.6%)の順であった。これらの回答からは、従来からある PTA 活動のような形での学校と地域の連携が現在でも中心的に行われていることがうかがえる。(図 B-3-3 参照)。

(4) 学校教育について知るためにしていること

「①学校行事に参加」(85.7%)、「④授業参観・保護者会への参加」(76.9%)、「②学級通信・学校通信に目を通す」(74.8%)、「⑤学校の授業公開に行く」(55.1%)の順で 50%を超える高い回答があり、全体として学校教育への関心の高さがうかがえる。また、「③学校のホームページに目を通す」(17.3%)の回答からは、インターネットの普及とともに、新しいメディアを通した学校教育への接触が徐々に進められていることがわかる。(図 B-3-4 参照)。

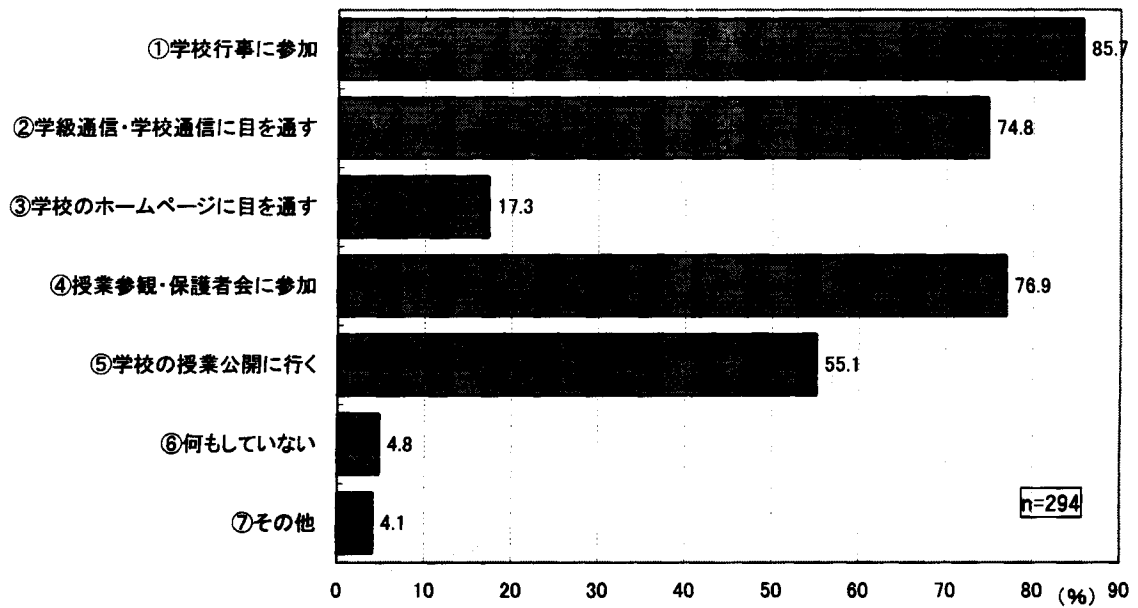


図 B-3-4 学校教育について知るためにしていること（複数回答）

4. 学校と地域社会との連携について

（1）学校が保護者や地域の人々から協力を得ることのメリット

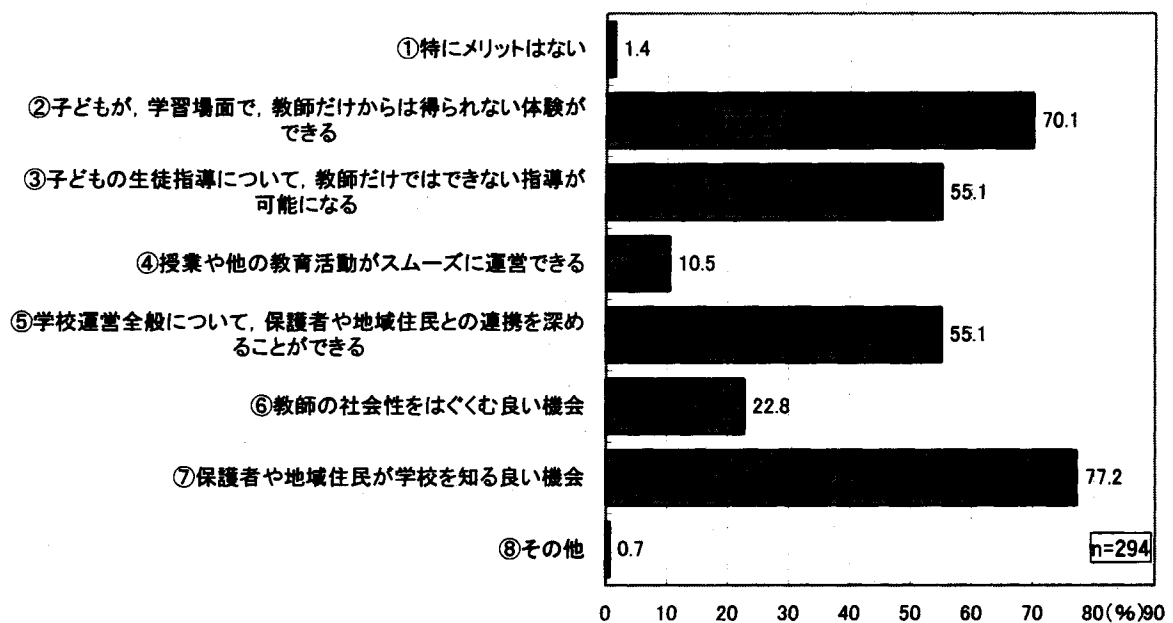


図 B-4-1 学校が保護者や地域の人々から協力を得ることのメリット（複数回答）

全体的な回答をみると、「①特にメリットはない」（1.4%）を除くと、98%以上の人が、保護者や地域の人々から協力を得ることにメリットがあると捉えている。具体的なメリットとして、「⑦保護者や地域住民が学校を知るよい機会」（77.2%）、「②子どもが学習場面

で教師だけでは得られない体験ができる」(70.1%)、「③子どもの生徒指導について、教師だけではできない指導が可能になる」(55.1%)、「⑤学校運営全般について、保護者や地域住民との連携を深めることができる」(55.1%)の順で50%を超える高い回答を得た。以下「教師の社会性をはぐくむよい機会」(22.8%)「授業や他の教育活動がスムーズに運営できる」(10.5%)の順である。これらのことから、保護者や地域住民の意識は、学校教育との連携には、大きなメリットがあり、学校理解を深め、地域の教育力を発揮するよい機会と考えていることがわかる(図B-4-1参照)。

(2) 学校に希望する配慮

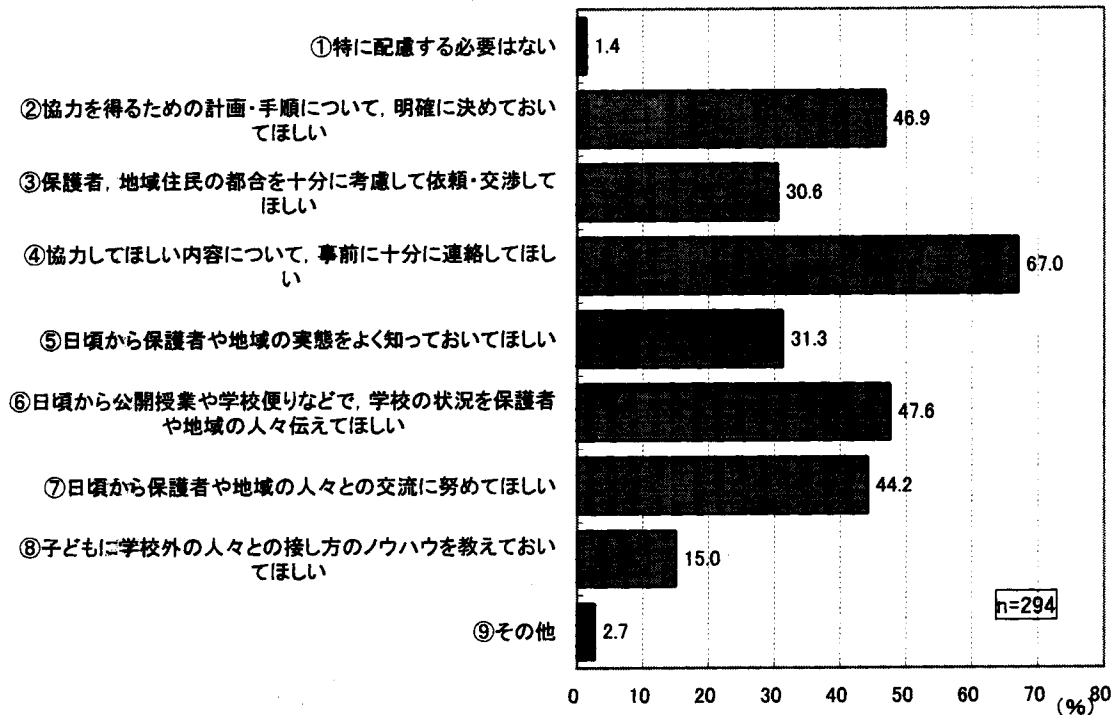


図 B-4-2 学校に希望する配慮 (複数回答)

全体的な回答をみると、「①特に配慮する必要はない」(1.4%)を除くと、98%以上の保護者や地域の人々は、学校に何らかの配慮が必要と捉えている。具体的に配慮すべきこととして、「④協力してほしい内容について事前に十分連絡してほしい」(67.0%)が60%を超える最も高い回答を得た。以下「⑥日頃から学校の状況を保護者や地域の人々に伝えてほしい」(47.6%)、「②協力を得るための計画・手順について明確に決めておいてほしい」(46.9%)、「⑦日頃から保護者や地域の人々との交流に努めてほしい」(44.2%)「⑤日頃から保護者や地域の実態を知ってほしい」(31.3%)の順であった。これらのことから、保護者や地域住民の意識は、協力する際には、事前に十分な打合せが必要であると考え、日頃からの情報交換の必要性を求めていることがわかる。(図B-4-2参照)。

(3) 学校と連携・協力する活動に関わる際、難しいこと

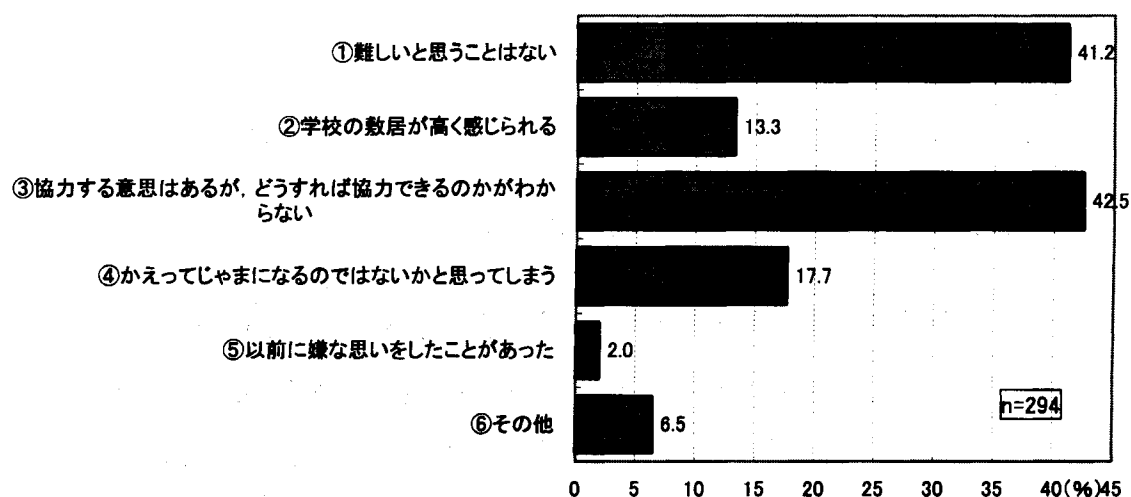


図 B-4-3 学校と連携・協力する活動に関わる際、難しいこと（複数回答）

全体的な回答をみると、「③協力する意思はあるが、どうすれば協力できるのかわからない」(42.5%)「①難しいと思うことはない」(41.2%)の2つの回答が高い結果となった。以下「④かえって邪魔になるのではないかとってしまう」(17.7%)「②学校の敷居が高く感じられる」(13.3%)との結果であった。(図 B-4-3 参照)。

C. 連携についての教員と保護者・地域住民との比較

本章では、教員と保護者・地域住民（以下、地域とする）に関して、特にそれぞれの意識について聞いた内容の設問同士の比較を試みる。教員と地域の意識の違いを見ることは、今後の「総合的な学習の時間」運営において、有効な示唆となるものである。

1. 「総合的な学習の時間」とはどのような学習か

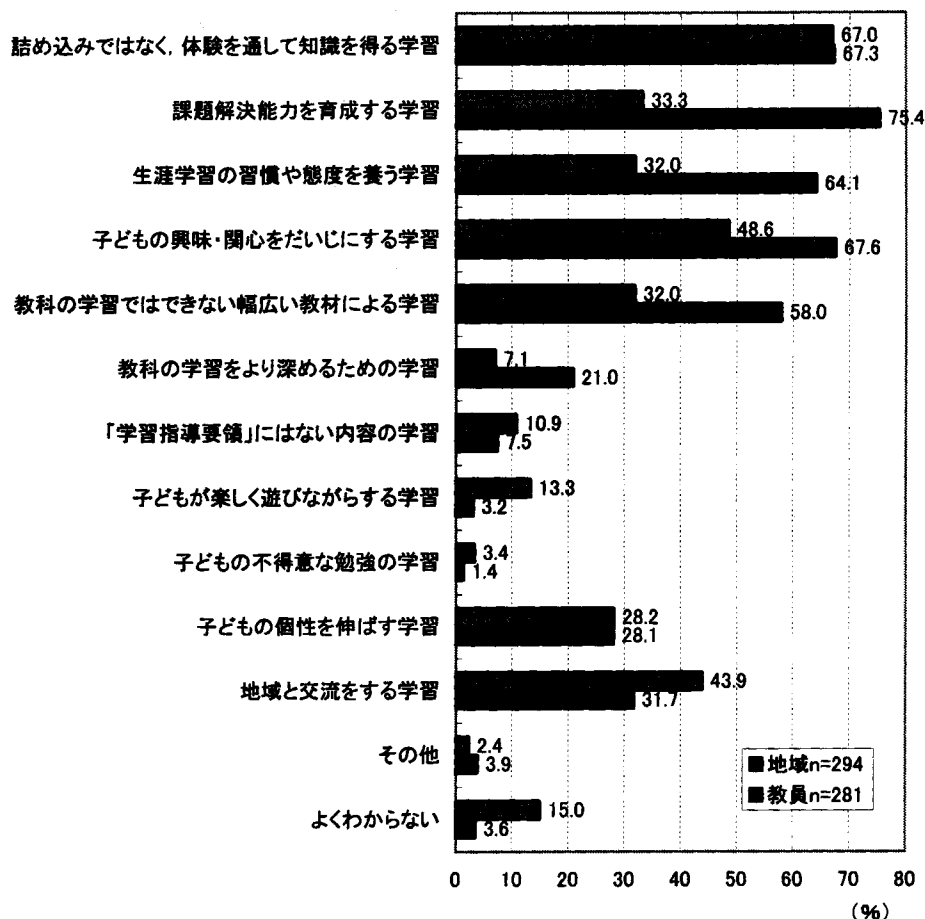


図 C-1 「総合的な学習の時間」とはどのような学習か（複数回答）

「よくわからない」という回答が地域は 15.0%である。教員に比べると「総合的な学習の時間」に関する認識は全体的に低い結果となっている。特に、「課題解決能力を育成する学習」「生涯学習の習慣や態度を養う学習」「子どもの興味・関心をだいにする学習」「教科の学習ではできない幅広い教材による学習」「教科の学習をより深めるための学習」においては、教員の回答率が著しく高い。

一方、地域の方がポイントが高いものの 1 つに、「地域と交流をする学習」（地域 43.9%、教員 31.7%）がある。（図 C-1 参照）。

2. 「総合的な学習の時間」についての感想

「系統的に学習することがおろそかになる」（地域 6.1%、教員 18.9%）「学力低下につながる」（地域 9.9%、教員 22.8%）「体験的に知識を得るので本当の学力が育つ」（地域 36.4%、教員 26.0%）と、「総合的な学習の時間」に対し、教員の方が否定的な地域の方が肯定的な見方をしている。「教師の負担が重くなる」については、（地域 20.4%、教員 59.4%）と、教員のポイントが高い（図 C-2 参照）。

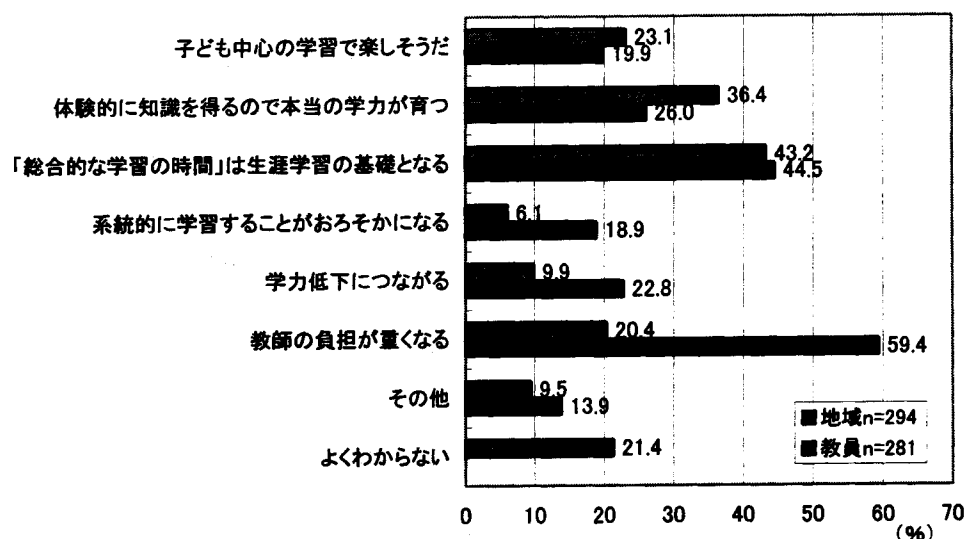


図 C-2 「総合的な学習の時間」についての感想（複数回答）

3. 保護者や地域の人々から協力を得ることのメリット

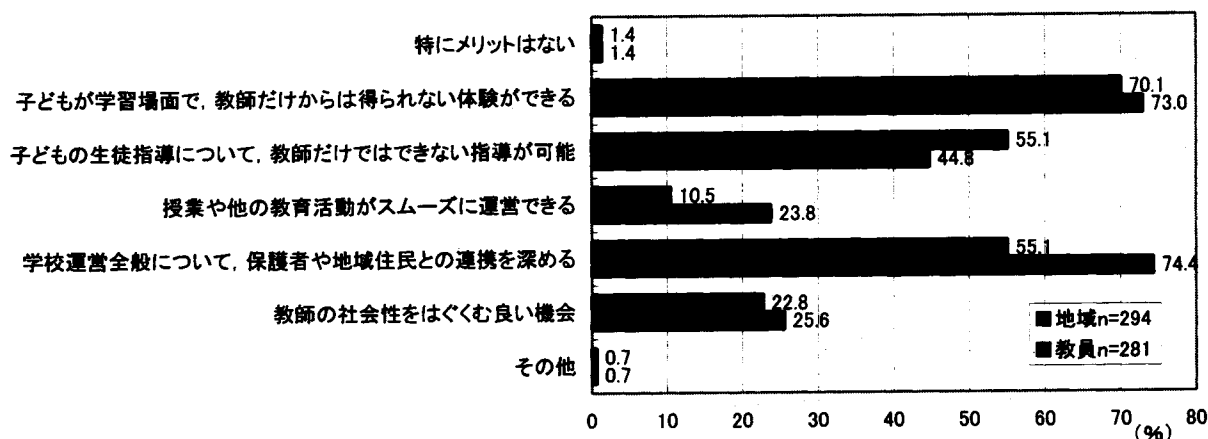


図 C-3 保護者や地域の人々から協力を得ることのメリット（複数回答）

顕著なものとしては、「学校運営全般について、保護者や地域住民との連携を深める」（地域 55.1%、教員 74.4%）が教員の回答が約 20 ポイント高い。「③子どもの生徒指導について、教師だけではできない指導が可能」（地域 55.1%、教員 44.8%）では地域が高く、「④授業や他の教育活動がスムーズに運営できる」（地域 10.5%、教員 23.8%）では、教員のポイントが高い。「特にメリットはない」は地域、教員ともポイントが低い。（図 C-3 参照）。

4. 保護者や地域の人々からよりよい協力を得るための（学校側の）留意点

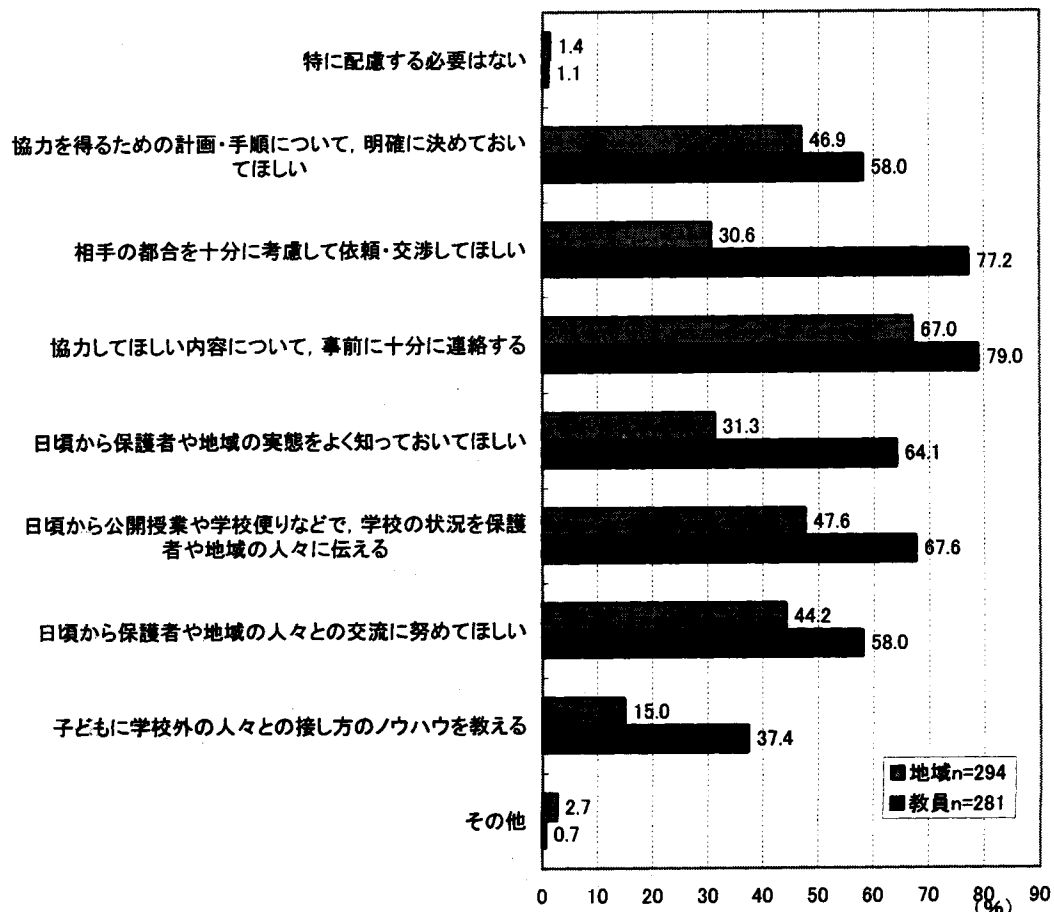


図 C-4 保護者や地域の人々からよりよい協力を得るための（学校側の）留意点（複数回答）

「特に配慮する必要はない」は地域、教員ともにポイントが低い。「相手の都合を十分に考慮して依頼・交渉してほしい」（地域 30.6%、教員 77.2%）、「日頃から保護者や地域の実態をよく知っておいてほしい」（地域 31.3%、教員 64.1%）、「日頃から公開授業や学校便りなどで、学校の状況を保護者や地域の人々に伝える」（地域 47.6%、教員 67.6%）、「子どもに学校外の人々との接し方のノウハウを教える」（地域 15.0%、教員 37.4%）については、20～40 ポイント以上、教員の方がポイントが高かった。さらに、「協力を得るための計画・手順について、明確に決めておいてほしい」（地域 46.9%、教員 58.0%）、「協力してほしい内容について、事前に十分に連絡する」（地域 67.0%、教員 79.0%）、「日頃から保護者や地域の人々との交流に努めてほしい」（地域 44.2%、教員 58.0%）の3項目については、10 ポイント以上、教員のポイントが高い結果となった（図 C-4 参照）。

以上のように、ほとんどの項目において、教員の方が地域の回答よりもポイントが高い結果となった。教員の方がより配慮の必要性を認識している反面、地域の方は教員ほどは配慮を要求していない面もあるようである。

しかし、「協力してほしい内容について、事前に十分に連絡する」については、地域の回答が 67.0%もある。協力内容についての事前連絡はやはり重要であることを十分に認識する必要がある。

Ⅲ 自由記述から見える問題

1. 「総合的な学習の時間」（以下、「総合」と略記）に対する感想

(1) 教員の感想

「その他」を選んだ教員の感想を自由記述で見ると、内容は大きく3つに分けられる。

- ① 意義を積極的に認める感想……「社会への関心を広げ、社会との接点生まれる」「教師がいろいろなことに興味を持つようになった」
- ② 意義に否定的な感想……「中学生には不要、その前にすべきことがある」「学べない子が多い」「ある程度の能力のない生徒は、何もしない時間になってしまう」「これまでの教科の時間を減らしてまで取り入れるべきか考えてしまう」
- ③ 指導が難しいという感想……「考える力のついていない子に何をしてもよいかわからない」「教師の指導力が問われる、教師の発想力、指導力、柔軟性、等が問われる」「無気力だったり、自分の課題が明確に持てないレベルの生徒に対しての支援をどうすればいいのか悩む」

(2) 保護者・地域住民の感想

保護者の感想も、概ね教員の場合と同様、3つに分類可能だ。

- ① 意義を積極的に認める感想……「机の上だけの学習と違い」「自分自身、見たり聞いたり、体に触れたりして、興味を持ち、体験してみようかなと言う気持ちが出てくると思えます」「多様な考え方や価値観を養うことができる」
- ② 意義に否定的ないし懐疑的な感想……「まず、基礎学力のレベルアップ」「漠然としていてつかみどころがない」「将来の大学受験が今の制度のままだとすれば、とても学力的に追いつかないので、塾や私立中学のカリキュラムに頼らざるをえないと考えます」
- ③ 指導が難しいという感想……「学校でもまだまだ手さぐり状態で、何をしてもよいのか、迷っているのではないのでしょうか」「教える教師の体験・知識により、差がつく時間なのでは」「まず、教師の総合的な学習が必要かな？」

教員自身がこの時間に否定的であったり、自信を持って指導していないとすれば、保護者・地域住民の不安は無理からぬことのように思われる。

2. 「総合」に関してなされた協力

自由記述には具体的で多様な回答が見られた。しかし、概ねそれらは、調査項目の選択肢に該当する内容であると考えて良い。1つだけ、教員の回答に「共同で指導案を作成した」という回答があった。ここまで踏み込んだ協力を得ることのできる教員は、おそらく、指導能力の高い教員ではないかと思われる。

3. 「総合」に関して協力したことがない理由（保護者・地域住民）

「総合」に関して協力したことがない理由を、保護者・地域住民に聞いている。自由記述を見ると、「要請されたことがない」また「要請されれば積極的に協力したい」という回答が圧倒的に多い。自由記述数33のうち、実に24、7割が同趣旨の内容であった。要請があれば協力したいと考えている保護者・地域住民が多いという印象を受ける。一方で、

教員の側に人材発掘が難しいとの声がある。自由記述を見る限り、発掘する努力の問題ではないかとの印象を受けてしまう。

4. 「総合」に関する協力上の問題

(1) 教員の側からの自由記述

案外少なく、「日程が合わない」「施設の利用手続きが面倒」などの記述が見られた。「公共機関の対応が悪い」というのも印象に残る。この場合、学校も公共機関である。ただし、中に少し気になる記述が見られた。「生徒の準備不足でお話を聞く内容がしっかりできていない子どももいて失礼だなあと思うけど、子どもたちだから仕方がないのかなあ」。「総合」では、こういう社会的スキルやマナーを「指導」することも教員の責務ではないか。「支援」流行りで「指導」なしは「総合」に限らず止しにしたい。

(2) 保護者・地域住民からの記述

もう少し、事前の打ち合わせをていねいにという声が多いようだ。たとえば、「事前の打合せ等を十分にしたい」「現場の教師とのコミュニケーションが不足していると思う」「先生が相手先の事業内容など理解されていないケースが多く、生徒が実習するのにもかわらず、他人ごとの様にしている先生もいる。スケジュールも学校側がすでに決定日として相談に来るため、こちら側で調整するしかない」など。スケジュールは学校優先との声と先の教員の回答「公共機関の対応が悪い」を重ね合わせるとどうなるか。他人（ひと）のふり見て我がふり直せというところか。

5. 協力に関する事前の打ち合わせ

協力依頼日の調整とともに、事前の打ち合わせをていねいにしないと、形式的な協力が終えてしまう危険が大きい。その「事前の打ち合わせ」に関する教員の自由記述には目立ったものがない。1人、「4回の授業に関してそれぞれ1週間前に1回ずつ」というのがあった。多忙であっても、必要な時間をとる努力は大事なことだと思う。「詳しい打ち合わせをする場合もあるし、簡単にする場合もある」という記述も見られた。必要にして十分であれば、簡単でよいのはもちろんだ。要は、協力してくれる人が協力内容について十分に把握でき、当日の授業がうまく運ぶことが重要なことである。

なお、打ち合わせの場所について、喫茶店で待ち合わせをしてというのがあった。この場合、公務員、教員としての守秘義務、具体的に言うと特に、子どものプライバシーが外に漏れることのないよう十分に注意したい。そういう意味では、壁に耳ありの場所は、避けた方が無難だろう。

6. 「総合」に関する情報提供と反応

この質問は教員に対して行っている。どういう方法で、情報提供しているかに関する自由記述のうち、選択肢に属さないと思われるものに、次のものがあった。「校門そばの掲示板」「PTA広報誌」「学校教育のパンフレット（新しい教育）を作成・配布」「総合の評価」「総合たよりを年5回発行」「学校評議員会議」。

情報提供に関する反応としては、「総合に対する肯定的な意見が寄せられた」「子どもの学習に対して協力的な態度が得られた」などの記述があった。反応を把握する工夫に関

して「アンケート調査を実施した」という積極的な取り組みの記述があった。

「総合」に限らず、情報の発信と先方からの情報の受容、つまり、意志疎通、情報交流は、現代の学校が保護者・地域住民に対して力を入れて行うべきことであると思う。それにしては、今ひとつの印象が拭えないように私には思われる。

7. 「総合」以外の学校と保護者・地域住民の協力

(1) 協力の内容

教員の回答には、「地域清掃」「空き缶拾いなどのボランティア活動」「地域育成会の催しに吹奏楽部・美術部が協力」「夏季休業中に夜間補導をしていただいている」「生活科で」「学活や教科の授業で」「学校行事」「夏祭りなどのパトロール、バザー」などが見られた。一方保護者・地域住民の回答では、「PTA活動」「保健委員会」「ボランティアとして」「職場で協力」などの記述が見られた。

(2) 協力上の留意点

教員の回答に「教師が地域へ出ることが必要」という記述がある。同感だ。一方保護者・地域住民の回答に「教師に学校外の人々との接し方のノウハウを教えておいてほしい」という記述がある。考えるべき課題である。

(3) 協力上の問題

教員が協力上難しいと思うことについて「手間がかかるので、そうこまめにはできない」「全般に時間がない」「交渉やフォロー（事後）が大変忙しい」「怪我と保障」などが見られた。一方保護者・地域住民の回答には、「読み聞かせや図書ボランティアに登録したが、1年間何も学校から連絡がなく、自分から動き出した」「先生達の協力性がかける」「先生方の目が外に向いていない」「PTA活動に対して、まったく無感心・無協力の教師が多すぎる」などがある。「どうぞ勝手に」でいいのだろうか。

8. 地域・学校を知る努力

教員が地域を知るためにしていることについて「PTAのパトロールに参加している」「知り合いを作る」「地域の施設に足を運ぶ」という記述がある。

保護者・地域住民の場合、「担任の先生との情報交換」「新聞記事等、学校・教育関係のものにこまめに目を通して」「PTA活動」「クラブ見学」などが見られた。

以上の記述から、見えてくる問題は、①「総合」に関して、教員自身がもう少し理解を深めること。②それを保護者・地域住民に知らせること、③学校と保護者・地域住民との協力に関しては、学校・教員の側に、保護者・地域住民への目配り・気配りがいまひとつ必要、④開かれた学校の意義に関する教員側の認識の深化、ということだ。要は現代の学校教育が抱える問題と進むべき方向に対する確かな目を養うということだろう。

もとより、こうしたことに心を砕いている教員も少なくない。しかし、「総合」に積極的に取り組んでいる学校において、なお、不足の様子が感じられる。開かれた学校は、実は学校のためだという命題がある。この命題はより正確に言えば、「開かれた学校は子どものためである」と言い換えるべきだろう。子どものために、学校は保護者・地域住民との協力関係を樹立する必要があるということだ。

IV 調査用紙と単純集計

学校と地域社会との連携に関する調査（総合的な学習の時間をめぐって）—学校用—

Ⅰ. 「総合的な学習の時間」について、先生のお考えをお聞かせください。

1. 「総合的な学習の時間」とはどのような学習だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

n=281

- ① 詰め込むのではなく、体験を通して知識を得る学習 189 (67.3%)
- ② 課題を解決する力を育成する学習 212 (75.4%)
- ③ 生涯にわたって学習していく習慣や態度を養うことをめざす学習 180 (64.1%)
- ④ 子どもの興味・関心をだいにする学習 190 (67.6%)
- ⑤ 教科の学習ではできない幅広い教材による学習 163 (58.0%)
- ⑥ 教科の学習をより深めるための学習 59 (21.0%)
- ⑦ 小学校の英語など「学習指導要領」にはない内容の学習 21 (7.5%)
- ⑧ 子どもが楽しく遊びながらする学習 9 (3.2%)
- ⑨ 子どもの得意な勉強の補習 4 (1.4%)
- ⑩ 子どもの個性を伸ばす学習 79 (28.1%)
- ⑪ 地域と交流をする学習 89 (31.7%)
- ⑫ よくわからない 10 (3.6%)
- ⑬ その他 具体的に：11 (3.9%)

2. 「総合的な学習の時間」についてどのような感想をお持ちですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

n=281

- ① 子ども中心の学習で楽しそう 58 (19.9%)
- ② 体験的に知識を得るので本当の学力が育つ 73 (26.0%)
- ③ 「総合的な学習の時間」は生涯学習の基礎となる 125 (44.5%)
- ④ 系統的に学習することがおそそになる 53 (18.9%)
- ⑤ 学力低下につながる 64 (22.8%)
- ⑥ 教師の負担が重くなる 167 (59.4%)
- ⑦ その他 具体的に：39 (13.9%)

Ⅱ. 「総合的な学習の時間」について、保護者や地域の人々からの協力を得ることにに関して、先生のお考えをお聞かせください。

1. 先生がご担当になられる「総合的な学習の時間」の実施に当たり、保護者や地域の人々の協力を得たことがありますか。ありませんか。ある場合、どのような人々の協力を得ていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281

- ① 協力を得たことではない 22 (7.8%)
- ② 教育委員会等の行政機関 75 (26.7%)
- ③ 地域の社会教育・青少年教育・福祉等に関わる公的施設・機関 184 (65.5%)
- ④ 自校以外の学校 47 (16.7%)
- ⑤ 民間企業、事業所、商店等 150 (53.4%)
- ⑥ PTA 109 (38.8%)
- ⑦ 地域に存在するNPO、NGO、その他の団体 38 (13.5%)
- ⑧ 保護者・地域住民 179 (63.7%)
- ⑨ 学校支援ボランティア 47 (16.7%)

⑩ 地域の各種委員（例えば、体育指導委員、青少年委員、児童民生委員など） 15 (5.3%)

⑪ その他 具体的に：13 (4.6%)

2. 具体的には、どのような協力を得ましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281

- ① 協力を得たことではない 15 (5.3%)
- ② 共同で指導案を作成した 5 (1.8%)
- ③ ゲストティーチャーとして指導してもらった 193 (68.7%)
- ④ 教師の学習指導の支援・補助をしてもらった 89 (24.6%)
- ⑤ 資料・道具その他の教材を提供してもらった 118 (42.0%)
- ⑥ 地域指導者等の紹介や仲介、コーディネートをしてもらった 39 (13.9%)
- ⑦ 施設の見学や実習をさせてもらった 170 (60.5%)
- ⑧ 学習活動の場所を提供してもらった 88 (31.3%)
- ⑨ 子どもの校外学習に際して、子どもの学習相談ののってもらった 45 (16.0%)
- ⑩ 地域の活動に子どもたちを参加させてもらった 33 (11.7%)
- ⑪ その他 具体的に：2 (0.7%)

3. 保護者や地域の人々の協力を得るために、どのような点に留意していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281

- ① 特に留意したことはない 15 (5.3%)
- ② 協力を得るための計画・手順について、学校全体で決めている 97 (34.5%)
- ③ 協力を得るための自分なりの計画・手順を決めている 55 (19.6%)
- ④ 相手の都合を十分に考慮して依頼・交渉している 202 (71.9%)
- ⑤ 協力してもらった内容について、事前に十分に理解してもらっている 177 (63.0%)
- ⑥ 協力者に、協力してもらったための部屋（給食ホールなど）を設けている 8 (2.8%)
- ⑦ 日頃から公開授業や学校便りなどで、学校の状況を保護者や地域の人々に伝えている 93 (33.1%)
- ⑧ 普段から保護者や地域の人々との交流に努めている 81 (28.8%)
- ⑨ 子どもに学校外の人々との接し方のノウハウを教えるようにしている 104 (37.0%)
- ⑩ 学校独自の人材リストを作っている 65 (23.1%)
- ⑪ その他 具体的に：4 (1.4%)

4. 保護者や地域の人々の協力を得る際に、問題を感ぜられたことはありますか。ありませんか。あった場合どのような問題でしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281

- ① 協力を得たことではない 15 (5.3%)
- ② 特に問題は感じなかった 66 (23.5%)
- ③ 連任者を得ることが難しい 83 (29.5%)
- ④ 協力依頼の段階でトラブルが発生し、協力が得られなかった 6 (2.1%)
- ⑤ 依頼したことと、実際にしていたことが違っていた 20 (7.1%)
- ⑥ 協力を得るための打ち合わせをする時間的余裕がない 144 (51.2%)
- ⑦ 謝礼、実費（旅費・教材費等）の折り合いがなかった 26 (9.3%)
- ⑧ 日時の調整がうまくいかず、協力を得られなかった 35 (12.5%)
- ⑨ 活動中の子どもたちの安全面で、少し心配な出来事があった。11 (3.9%) (お差し支えなければ、具体的に)
- ⑩ 子どもへのプライバシー保護に関わる問題がおきた：0 (0.0%) (お差し支えなければ、具体的に)
- ⑪ せっかくのチャンスを授業に活かすできなかった 6 (2.1%)
- ⑫ その他 具体的に：10 (3.6%)

5. 協力者はどのように探しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281

- ① 特に探したことはない 21 (7.5%)

- ② 教師が個人的に探した 132 (47.0%)
- ③ 同僚の教師に教えてもらった 102 (36.3%)
- ④ 子どもや保護者を通じて紹介してもらった 98 (34.9%)
- ⑤ 行政機関やその他の公的機関を通じて紹介してもらった 100 (35.6%)
- ⑥ 地域社会 (施設・団体・住民・保護者など) からの申し入れで 54 (19.2%)
- ⑦ 学校が独自に作成した人材バンク等を通して 52 (18.5%)
- ⑧ 市町村教育委員会の人材バンク等を通して 34 (12.1%)
- ⑨ 上記以外の人材バンクを通して 具体的に: 3 (1.1%)
- ⑩ その他 具体的に: 16 (5.7%)
6. 協力者との事前打ち合わせについてお聞きします。当該授業のどのくらい前から、打ち合わせを行っていただけますか。あてはまるものを1つを選んで○をつけてください。①～④については、打ち合わせの回数を数字で直接ご記入ください。n=281
- ① 当該授業の1カ月前から 程度くらい 129 (45.9%) ※回数本文中の表参照
- ② 当該授業の2週間以上前から 程度くらい 88 (23.5%)
- ③ 当該授業の1週間以上前から 程度くらい 26 (9.3%)
- ④ 当該授業の3日以上前から 程度くらい 9 (3.2%)
- ⑤ 当該授業の前日にはじめて 1 (0.4%)
- ⑥ 当該授業の当日はじめて 4 (1.4%)
- ⑦ その他 具体的に: 25 (8.9%)
- 無回答 21 (7.5%)
7. 協力者との事前打ち合わせについては、どの程度行う事が多いですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281
- ① 協力してもらったことはない 11 (3.9%)
- ② 依頼する授業等の目的や具体的な内容について、詳しく説明する事が多い 113 (40.2%)
- ③ 依頼する授業等の目的や具体的な内容について、簡単に説明する事が多い 125 (44.5%)
- ④ 活動してもらおう場合の留意点について、詳しく説明する事が多い 69 (24.6%)
- ⑤ 活動してもらおう場合の留意点について、簡単に説明する事が多い 85 (30.2%)
- ⑥ リハーサルをしてもらう事が多い 3 (1.1%)
- ⑦ クラスの児童・生徒と顔合わせをする事が多い 8 (2.8%)
- ⑧ その他 具体的に: 7 (2.5%)
8. 事前の打ち合わせはどのようなに行いましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281
- ① 電話で 212 (75.4%)
- ② 学校に来てもらって 80 (28.5%)
- ③ こちから訪問して 161 (57.3%)
- ④ 手紙・ファクシミリ・E-mail などによる文書のやりとりで 100 (35.6%)
- ⑤ その他 具体的に: 5 (1.8%)
9. 「総合的な学習の時間」における保護者や地域の人々との連携のための組織・体制はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281
- ① 教師が中心になった校内組織がある 127 (45.2%)
- ② PTA が中心になった組織がある 19 (6.8%)
- ③ 学校と教育委員会の協働組織がある 11 (3.9%)
- ④ 学校と教育委員会以外の機関との協働組織がある 8 (2.8%)
- ⑤ 組織・体制はない (今後もつくる可能性はない) 71 (25.3%)
- ⑥ 現在、組織・体制はないが、今後つくる可能性はある (どのような組織・体制ですか。具体的に書きください): 30 (10.7%)
- ⑦ その他 具体的に: 14 (5.0%)
- Ⅲ. 「総合的な学習の時間」における、学校・地域間の情報提供・情報交流についてお聞きします。
1. 「総合的な学習の時間」への取り組みについて、保護者や地域の人々に対して情報提供を行っていますか。あてはまるものを1つに○をつけてください。n=281
- ① 保護者に対して行っている → 2, 3, 4, 5へ 136 (48.4%)
- ② 保護者および地域の人々に対して行っている → 2, 3, 4, 5へ 90 (32.0%)
- ③ 行っていない → 6へ 41 (14.6%)
- 無回答 14 (5.0%)
2. 上記1で「①または②」に回答した方にお聞きします。情報提供の目的は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=226
- ① 「総合的な学習の時間」の意義を理解してもらうため 176 (77.9%)
- ② 「総合的な学習の時間」でゲストティーチャーなどの協力を得るため 88 (38.9%)
- ③ 「総合的な学習の時間」の様子をともかく知らせるため 143 (63.3%)
- ④ 「総合的な学習の時間」について保護者や地域の人々の意見を知るため 41 (18.1%)
- ⑤ 子どもを保護者や地域の人々と一緒に育てるため 87 (38.5%)
- ⑥ 学校情報の1つとして知ってもらうため 132 (58.4%)
- ⑦ 知らせていくことが今日では常識となっているため 25 (11.1%)
- ⑧ 教育委員会などの意向のため 4 (1.8%)
- ⑨ 学校選択に際しての判断基準の材料としてもらうため 9 (4.0%)
- ⑩ 明確な目的はない 1 (0.4%)
- ⑪ その他 具体的に: 1 (0.4%)
3. 上記1で「①または②」に回答した方にお聞きします。情報提供は、何を利用して行っていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=226
- ① 学校通信 142 (62.8%) ② 学年通信 180 (79.6%) ③ 学校通信 67 (29.6%)
- ④ 学校のホームページ 60 (26.5%) ⑤ PTAの集会 45 (19.9%)
- ⑥ 授業参観・保護者会 155 (68.6%) ⑦ 家庭訪問 12 (5.3%) ⑧ 授業公開 103 (45.6%)
- ⑨ 市町村の広報紙 (誌) 8 (3.5%) ⑩ 社会教育施設などへのパンフレット 5 (2.2%)
- ⑪ 地域懇談会 26 (11.5%)
- ⑫ その他 具体的に: 16 (7.1%)
4. 上記1で「①または②」に回答した方にお聞きします。情報提供した事に対して、保護者や地域の人々の反応をどのように把握していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=226
- ① 今のところ、反応がない 23 (10.2%)
- ② 授業参観・保護者会で意見を聞いている 136 (60.2%)
- ③ 保護者からの連絡ノートや感想を通して 56 (24.8%)
- ④ 投票箱を設置している 13 (5.8%)
- ⑤ 学校のホームページを通して 18 (8.0%)
- ⑥ 地域の協力者からの感想やアンケートを通して 54 (23.9%)
- ⑦ 市町村の広報紙 (誌) を通して 2 (0.9%)
- ⑧ 地域の行事 (集会・懇談会・文化祭・フェスタ・体育祭など) の機会を通して 41 (18.1%)
- ⑨ 学校評議員から 35 (15.5%)

- ⑭ P T A の役員から 70 (31.0%)
- ⑮ 地域や地域の団体・サークルの役員から 4 (1.8%)
- ⑯ その他 具体的に： 4 (1.8%)
5. 上記1で「①または②」に回答した方にお聞きします。情報提供をしたことに対して、保護者や地域の人々からの反応はどのようなものでしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=226
- ① 学校の取り組みが理解できたと言われた 105 (46.5%)
- ② もう少し詳しく知りたいと言われた 21 (9.3%)
- ③ 総合的な学習の時間に対する否定的な意見が寄せられた 15 (6.6%)
- ④ 公開授業や授業参観の人数が増えた 17 (7.5%)
- ⑤ 学校への協力の申し出があった 54 (23.9%)
- ⑥ 反応はあったが、まだ十分に内容を捉えていない 76 (33.6%)
- ⑦ その他 具体的に： 13 (5.8%)
6. 上記1で「③」に回答した方にお聞きします。「総合的な学習の時間」に関する情報提供をしないのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=41
- ① 学校外に知らせる積極的意義を感じていないため 6 (14.6%)
- ② 知らせる体制が整っていないため 20 (48.8%)
- ③ 子どもたちのプライバシー保護のため 2 (4.9%)
- ④ 知らせる時間的余裕がないため 14 (34.1%)
- ⑤ 教師間の共通理解がとれていないため 6 (14.6%)
- ⑥ 理由はない 9 (22.0%)
- ⑦ その他 具体的に： 1 (2.4%)
- N. 「総合的な学習の時間」以外の面で、地域社会との連携について、先生のお考えをお願いします。
1. 「総合的な学習の時間」以外に、どのような活動で地域社会と連携・協力していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281
- ① 「総合的な学習の時間」以外の教育活動全般 126 (44.8%)
- ② 校内の巡回など学校の安全支援活動 67 (23.8%)
- ③ 学校の施設・設備等、教育環境の整備・支援活動 98 (34.9%)
- ④ 学区内の安全支援活動（見回り等） 142 (50.5%)
- ⑤ 協力していない 14 (5.0%)
- ⑥ その他 具体的に： 17 (6.0%)
2. 保護者や地域の人々から協力を得ることにはメリットがあると思いますか、思いませんか。あると思われる場合、それは何だと思えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281
- ① 特にメリットはない 4 (1.4%)
- ② 子どもが、学習場面で、教師だけでは得られない体験をすることができる 205 (73.0%)
- ③ 子どもの生徒指導について、教師だけではできない指導が可能になる 126 (44.8%)
- ④ 授業や他の教育活動がスムーズに運営できる 87 (30.9%)
- ⑤ 学校運営全般について、保護者や地域の人々との連携を深めることは重要である 208 (74.4%)
- ⑥ 教師の社会性を高める良い機会になる 72 (25.6%)
- ⑦ その他 2 (0.7%)
3. 保護者や地域の人々からよりよい協力を得るためには、どのような点に留意する必要があると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281
- ① 特に留意する必要はない 3 (1.1%)
- ② 協力を得るための計画・手順について、学校全体で決めておく 163 (58.0%)
- ③ 相手の都合を十分に考慮して依頼・交渉する 217 (77.2%)
- ④ 協力してもらう内容について、事前に十分に理解してもらう 222 (78.0%)
- ⑤ 日頃から保護者や地域の英気をよく知っておく 180 (64.1%)
- ⑥ 日頃から公開授業や学校行事などで学校の状況を保護者や地域の人々に伝えておく 190 (67.6%)
- ⑦ 日頃から保護者や地域の人々との交流に努める 163 (58.0%)
- ⑧ 子どもに学校外の人々との接し方のノウハウを教えておく 105 (37.4%)
- ⑨ 学校独自の人材リストを作っておく 106 (37.7%)
- ⑩ その他 具体的に： 2 (0.7%)
4. 保護者や地域の人々との連携・協力を得る活動の実施において、難しいと思うのはどのようなことですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281
- ① 難しいと思うことはない 27 (9.6%)
- ② 適当な人材や施設・機関等が見つからない 117 (41.6%)
- ③ 適当な人材や施設・機関等を見つけたり交渉したりする方法がわからない 28 (10.0%)
- ④ 適当な人材や施設・機関等を見つけたり交渉したりする時間がない 130 (46.3%)
- ⑤ 謝金などに充てる予算がない（少ない） 126 (44.8%)
- ⑥ 今までにトラブルが発生して問題になったことがあり、不安である 4 (1.4%)
- ⑦ 子どもの安全確保について不安がある 52 (18.5%)
- ⑧ 子どものプライバシー保護に不安がある 22 (7.8%)
- ⑨ その他 具体的に： 7 (2.5%)
5. 勤務校の地域の様子を知るために、どのようなことをしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281
- ① 何もしていない 23 (8.2%)
- ② 家庭訪問を必要に応じて行っている 119 (42.3%)
- ③ 地域を歩いている 117 (41.6%)
- ④ 地域の行事、社会教育の講座・行事等に参加している 99 (35.2%)
- ⑤ 地域懇談会に参加している 85 (30.2%)
- ⑥ 広報等の地域のお知らせや資料を収集している 69 (24.6%)
- ⑦ その他 具体的に： 9 (3.2%)
6. 勤務校の地域において、自発的に、協力・支援活動等をしたことがありますか、ありませんか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=281
- ① 何もしていない 75 (26.7%)
- ② 伝統芸能・文化を保護する活動 25 (8.9%)
- ③ サークル・同好会活動 9 (3.2%)
- ④ 子どもに対するスポーツ・レクリエーションなどの支援 53 (18.9%)
- ⑤ 高齢者の生活や余暇を支援する活動 9 (3.2%)
- ⑥ 障害者の生活や余暇を支援する活動 16 (5.7%)
- ⑦ 自然・環境を美化・保護する活動 63 (22.4%)
- ⑧ 地域住民の学習活動の指導者となる活動 13 (4.6%)
- ⑨ PTA の活動 110 (39.1%)
- ⑩ その他 具体的に： 8 (2.8%)
- V. ご意見・ご感想などありましたら、ご自由にお書きください。

あなたの自身のことについてお聞きします。n=281

1. 年齢 20歳代 23 (8.2%) / 30歳代 81 (21.7%) / 40歳代 120 (42.7%) / 50歳代 67 (23.8%) / 60歳代 1 (0.4%) / 無回答 9 (3.2%)
2. 性別 男 140 (49.8%) / 女 133 (47.3%) / 無回答 8 (2.8%)
3. 勤務校 国立 0 (0.0%) / 公立 281 (100.0%) / 私立 0 (0.0%)
- 小学校 106 (37.7%) / 中学校 175 (62.3%) / 高等学校 0 (0.0%)
4. 職名 校長 11 (3.9%) / 教頭 14 (5.0%) / 教諭 249 (88.6%) / 無回答 7 (2.5%)
5. 勤務校のある市区町村に住んでいますか はい 86 (30.6%) / いいえ 188 (66.9%) / 無回答 7 (2.5%)
6. 教職勤務年数 ~10年 54 (19.2%) / 11~20年 85 (30.2%) / 21~30年 106 (37.7%) / 31~40年 28 (10.0%) / 41年~ 0 (0.0%) / 無回答 8 (2.8%)

学校と地域社会との連携に関する調査 (総合的な学習の時間をめぐって) 一地域用

1. 今年度から施行されている「総合的な学習の時間」についてお聞かせください。

1. 「総合的な学習の時間」ではどのような学習がなされていると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=294

- ① よくわからない 44 (15.0%)
- ② 詰め込みではなく、体験を通して知識を得る学習 197 (67.0%)
- ③ 課題を解決する力を育成する学習 98 (33.3%)
- ④ 生涯にわたる学習していく習慣や態度を養うことをめざす学習 94 (32.0%)
- ⑤ 子どもの興味・関心をだいにする学習 143 (48.6%)
- ⑥ 国語や社会、算数・数学など教科の学習ではできない幅広い教材による学習 94 (32.0%)
- ⑦ 国語や社会、算数・数学など教科の学習をより深めるための学習 21 (7.1%)
- ⑧ 小学校的英語など「学習指導要領」にはない内容の学習 32 (10.9%)
- ⑨ 子どもが楽しく遊びながらする学習 39 (13.3%)
- ⑩ 子どもが得意な勉強の補習 10 (3.4%)
- ⑪ 子どもが個性を伸ばす学習 83 (28.2%)
- ⑫ 地域と交流をする学習 129 (43.9%)
- ⑬ その他 7 (2.4%) (具体的に:)

2. 「総合的な学習の時間」についてどのような感想をお持ちですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=294

- ① よくわからない 63 (21.4%)
- ② 子ども中心の学習で楽しそうだ 68 (23.1%)
- ③ 体験的に知識を得るので本当の学力が育つ 107 (36.4%)
- ④ 「総合的な学習の時間」は生涯学習の基礎となる 127 (43.2%)
- ⑤ 系統的に学習することがおろそかになる 18 (6.1%)
- ⑥ 学力低下につながる 29 (9.9%)
- ⑦ 教師の負担が重くなる 60 (20.4%)
- ⑧ その他 具体的に: 28 (9.5%)

II. 「総合的な学習の時間」における協力の現状についてお聞きします。

1. 「総合的な学習の時間」の授業について、次のような協力をしたことがありますか。ありませんか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=294

- ① 共同で指導案を作成した 2 (0.7%)
- ② ゲストティーチャーとして指導した 17 (5.8%)
- ③ 教師の学習指導の支援・補助をした 25 (8.5%)
- ④ 資料・道具その他の教材を提供した 29 (9.9%)
- ⑤ 地域指導者等の紹介や仲介、コーディネートをした 22 (7.5%)
- ⑥ 施設の見学や実習を援助した 40 (13.6%)
- ⑦ 学習活動の場所を提供した 17 (5.8%)
- ⑧ 子どもの校外学習に際して、子どもの学習相談にのった 69 (23.5%)
- ⑨ その他 具体的に: 21 (7.1%)
- ⑩ 協力をしたことはない。お差し支えなければ、理由をお聞かせください: 122 (41.5%)

2. 協力をされたとき、何か問題を感じたことがありますか。ありませんか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=294

- ① 負担や問題は感じなかった 107 (36.4%)
- ② 協力依頼の交渉段階でのトラブルがあった 3 (1.0%)
- ③ 事前の打ち合わせが不十分で、教師の意向がよくわからないまま授業等を任された 12 (4.1%)
- ④ 依頼内容と自分がやりたいことに違いがあったため、思うようにできなかった 3 (1.0%)
- ⑤ 子どもの反応がつかめなかった 18 (6.1%)
- ⑥ 謝礼や実費 (旅費・教材費等) が折り合わなかった 0 (0.0%)
- ⑦ 日程調整でこちらの都合が考慮されなかった 3 (1.0%)
- ⑧ 子どもの安全面で心配があった 12 (4.1%)
- ⑨ 子どものプライバシー保護の面で心配があった 1 (0.3%)
- ⑩ 子どもたちの接し方について心配があった 16 (5.4%)
- ⑪ その他 具体的に: 27 (9.2%)

3. 協力に当たって、学校側にとどのようなことを望みたいですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=294

- ① 協力を授業等の目的や具体的な内容について、詳しく説明してほしい 177 (60.2%)
- ② 協力する場合の留意点について、詳しく説明してほしい 121 (41.2%)
- ③ リハーサルをさせてほしい 1 (0.3%)
- ④ クラスの児童・生徒と事前に顔合わせをさせてほしい 17 (5.8%)
- ⑤ 子どもに学校外の人々との接し方のノウハウを教えてほしい 48 (16.3%)
- ⑥ 実費程度は出してほしい 7 (2.4%)
- ⑦ 謝礼を出してほしい 1 (0.3%)
- ⑧ その他 具体的に: 15 (5.1%)

III. 「総合的な学習の時間」以外での、学校教育への協力の現状についてお聞きします。

1. 学校教育に協力するために、市町村や学校の人材バンクに登録していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。n=294

- ① 個人として登録している 20 (6.8%)
- ② 自分が所属している団体・サークルとして登録している 15 (5.1%)

- ③ 登録していない 109 (37.1%) (理由を具体的に：)
 ④ 制度がない (知らない) 137 (46.6%)
 無回答 13 (4.4%)
2. あなたは学校教育に協力をすることがありますか。ありませんか。ある場合、それはどのような内容ですか。
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=294
- ① 協力したことはない 12 (4.1%) (理由を具体的に：)
 ② 地域の一一般住民、保護者個人として日常的に協力している 96 (32.7%)
 ③ 学校支援ボランティアとして協力している 28 (8.8%)
 ④ PTA役員として協力している 214 (72.8%)
 ⑤ 学校評議員として協力している 33 (11.2%)
 ⑥ 学校と地域の連携組織の一員として協力している 42 (14.3%)
 ⑦ 所属している職場や団体の一員として協力している 23 (7.8%)
 ⑧ 自治会の活動を通じて協力している 57 (19.4%)
 ⑨ 地区 (地域) 懇談会へ参加している 41 (13.9%)
 ⑩ その他 8 (2.7%) (具体的に：)
3. 「総合的な学習の時間」以外に、どのような活動で学校教育と連携・協力していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=294
- ① 「総合的な学習の時間」以外の教育活動の援助 (図書室での本の読み聞かせ、図書室の図書整理、教材の情報提供や作成手助け、部活動の指導・補助、学校行事の支援 など) 53 (18.0%)
 ② 学校内の安全支援 (校内の巡回、プール指導補助 など) 21 (7.1%)
 ③ 教育環境の整備・支援 (学校の施設・設備の補修・整備、植木や花壇の手入れ など) 34 (11.8%)
 ④ 学区内の安全支援 (校外パトロール など) 100 (34.0%)
 ⑤ 商品回収、バザー、ベルマーク収集などによる備品援助 182 (55.1%)
 ⑥ 学校支援のための人材バンク運営 9 (3.1%)
 ⑦ 学校情報誌の作成、学校のホームページ作成・運営 5 (1.7%)
 ⑧ PTA活動に参加する 223 (76.9%)
 ⑨ 地域の子ども様子を知らせたり、投書などで意見を述べる 23 (7.8%)
 ⑩ 協力していない 9 (3.1%)
- ⑪ その他 9 (3.1%) (具体的に：)
4. 学校教育について知るために、個人的には、どのようなことをしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=294
- ① 学校行事 (学芸会や運動会など) に参加している 252 (86.7%)
 ② 学校通信・学校通信に目を通している 220 (74.8%)
 ③ 学校のホームページに目を通している 51 (17.3%)
 ④ 授業参観・保護者会に参加している 228 (76.9%)
 ⑤ 学校の授業公開に行っている 182 (55.1%)
 ⑥ 何もしていない 14 (4.8%)
 ⑦ その他 12 (4.1%) (具体的に：)
- IV. 学校教育と地域社会との連携について、ご意見をお聞かせください。
 1. 学校が保護者や地域の人々から協力を得ることはメリットがあると思いますか。思いませんか。あると思われる場合、それは何だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
 n=294
- ① 特にメリットはない 4 (1.4%)
 ② 子どもが、学習場面で、教師だけでは得られない体験をすることができ 206 (70.1%)
 ③ 子どもの生徒指導について、教師だけではできない指導が可能になる 162 (55.1%)
 ④ 授業や他の教育活動がスムーズに運営できる 31 (10.5%)
 ⑤ 学校運営全般にはぐくむ良い機会を深めることができる 162 (55.1%)
 ⑥ 教師の社会性をはぐくむ良い機会になる 67 (22.8%)
 ⑦ 保護者や地域住民が学校を知る良い機会になる 227 (77.2%)
 ⑧ その他 2 (0.7%) (具体的に：)
2. 保護者や地域の人々からよりよい協力を得るために、学校には、どのような点で配慮してほしいと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=294
- ① 特に配慮する必要はない 4 (1.4%)
 ② 協力を得るための計画・手順について、明確に決めておいてほしい 138 (46.9%)
 ③ 保護者、地域住民の都合を十分に考慮して依頼・交渉してほしい 90 (30.6%)
 ④ 協力してほしい内容について、事前に十分に連絡してほしい 197 (67.0%)
 ⑤ 日頃から保護者や地域の実態をよく知っておいてほしい 82 (31.3%)
 ⑥ 日頃から公開授業や学校便りなどで、学校の状況を保護者や地域の人々に伝えてほしい 140 (47.6%)
 ⑦ 日頃から保護者や地域の人々との交流に努めてほしい 130 (44.2%)
 ⑧ 子どもに学校外の人々との接し方のノウハウを教えておいてほしい 44 (15.0%)
 ⑨ その他 8 (2.7%) (具体的に：)
3. 保護者や地域住民として、学校と連携・協力する活動に関わる際、難しいと思うのはどのようなことですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。n=294
- ① 難しいと思うことはない 121 (41.2%)
 ② 学校の敷居が高く感じられる (ななどなくとっつきにくい) 39 (13.3%)
 ③ 協力の意思はあるが、どうすれば協力できるのかわからない 125 (42.5%)
 ④ かえってじゃまになるのではないかと考えてしまう 52 (17.7%)
 ⑤ 以前に嫌な思いをしたことがあった 6 (2.0%) (お差し支えなければ、具体的に書きください：)
 ⑥ その他 19 (6.5%) (具体的に：)
- V. あなた自身のことについてお聞きします。n=294
1. 年齢
 19 歳未満 1 (0.3%) / 20 代 2 (0.7%) / 30 代 62 (21.1%) / 40 代 164 (55.8%) / 50 代 35 (11.9%) / 60 代 16 (5.4%) / 70 代 12 (4.1%) / 80 歳以上 1 (0.3%) / 無回答 1 (0.3%)
2. 性別
 男 59 (20.1%) / 女 232 (78.9%) / 無回答 3 (1.0%)
3. 現在、小学校に就学しているお子さんはいいますか。
 いる 124 (42.4%) / いらない 162 (55.1%) / 無回答 8 (2.7%)
4. 現在、中学校に就学しているお子さんはいいますか。
 いる 174 (59.2%) / いらない 116 (39.5%) / 無回答 4 (1.4%)
5. この地域に何年住んでいますか。
 10 年未満 60 (20.4%) / 11~20 年 109 (37.1%) / 21~30 年 36 (12.2%) / 31~40 年 29 (9.9%) / 41~50 年 41 (13.9%) / 51~60 年 8 (2.7%) / 61 年以上 7 (2.4%) / 無回答 4 (1.4%)

**学校と地域社会との連携・協力体制の在り方に
関する実証的研究**

2003（平成15）年3月20日発行

編集・発行 文教大学付属教育研究所

〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島 3337

電話 048-974-8811
